



SIC Annual Report 2019

(令和元年度事業報告)

令和2年9月30日



株式会社さがみはら産業創造センター
Sagamihara Incubation Center Ltd.

INDEX

1 インキュベーション施設と入居企業

ーラボ・オフィスー

1 SIC-1	p1.2
2 SIC-2 Creation Lab./R&D Lab.	p3.4.5.6
3 SIC-3	p7.8
4 Desk ¹⁰	p9
5 SIC 全体	p10.11

2 SIC 実施事業

ー経営サポートー

1 企業支援	p12
2 セミナー	p13

ー連携・研究開発ー

3 さがみはら表面技術研究所	p14
4 首都圏南西地域連携サポート事業	p15.16.17.18
5 産業用ロボット導入支援事業	p19.20.21

ー人材育成ー

6 SIC 経営塾	p22
7 SIC 職場リーダー養成塾	p23
8 SIC カイゼン・スクール	p24
9 さがみはら子どもアントレプレナー体験事業	p25
10 『アントレ・チャレンジ』プロジェクト	p26
11 サガツクナビ (地元企業と学生との出会いをつなぐ)	p27

ー販路開拓ー

12 海外販路開拓支援事業 (台湾ビジネスサポート事業)	p28
---------------------------------	-----

3 SIC 会社概要

1 さがみはら産業創造センターの歩み	p29
2 主な事業と開始年度 (カテゴリー別)	p30
3 財務状況	p31
4 競争的資金の獲得	p32
5 スタッフ数の変遷	p33
6 支援ネットワーク	p33
7 視察・研修	p34
8 新聞掲載	p35
9 広報紙「かわらばん」の発行	p36
10 株主と役員	p37

1-1-1

S I C - 1 Startup Lab. (インキュベーションセンター)

入居対象

<新規創業者>

- ・創業準備中または創業間もない企業および個人
- ・研究開発により、新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す創業間もない企業および個人

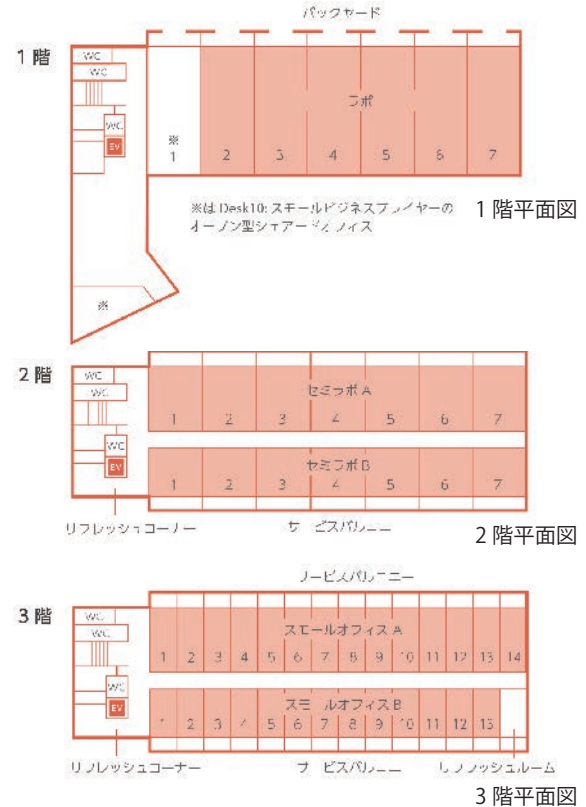
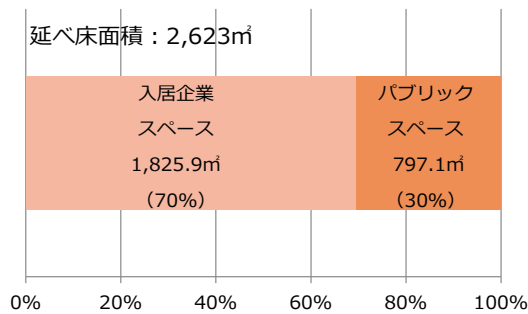
<企業>

- ・新分野進出により経営基盤の強化を目指す中小企業
- ・研究開発により新技術や新製品の創出を図り、その事業化を目指す中小企業

入居期間

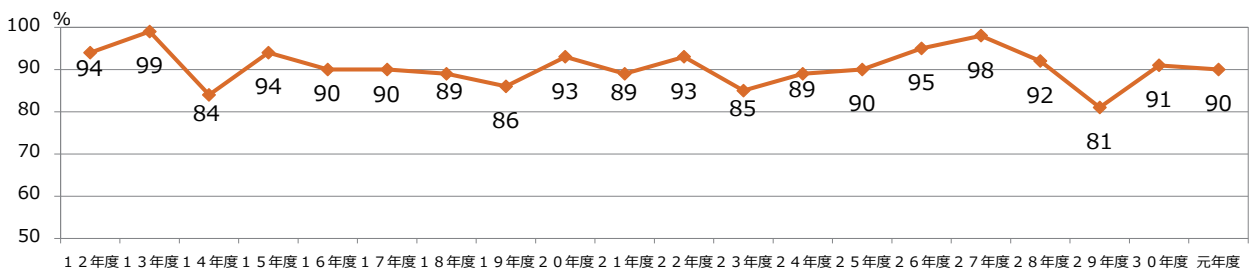
3年間(2年間の再契約が2回可)

施設概要



	ラボ	セミラボ A	セミラボ B	スモールオフィス A	スモールオフィス B
設置階	1階	2階		3階	
部屋数	7室	7室	7室	12室	13室
床面積	94.5㎡	47.3㎡	31.5㎡	23.6㎡	17.3㎡

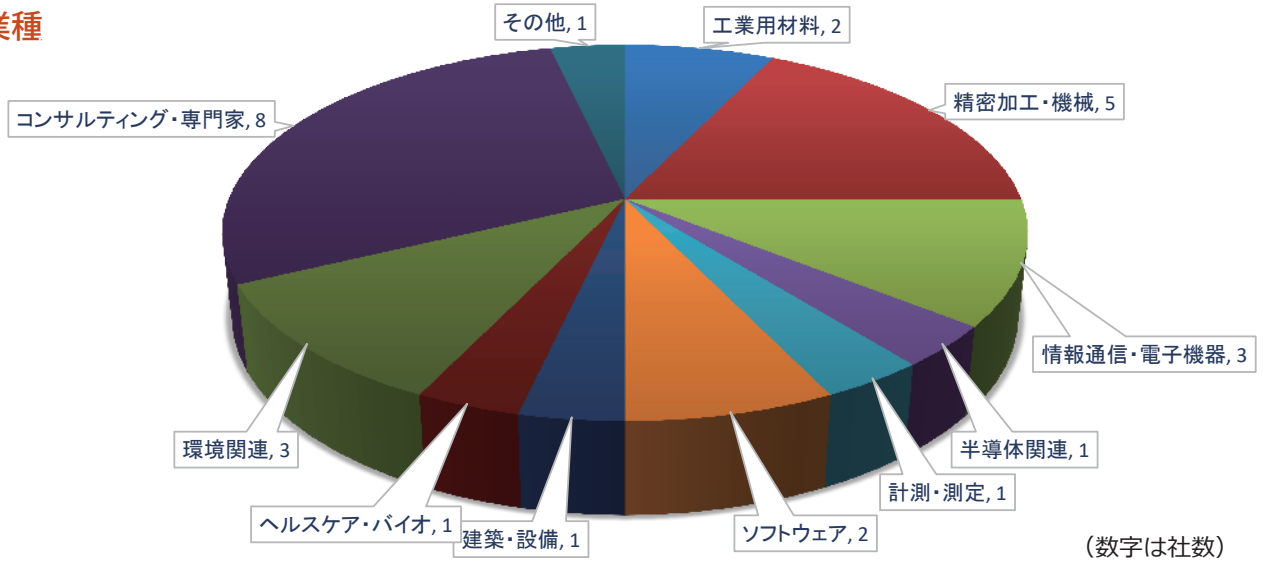
入居率 (賃料ベース)



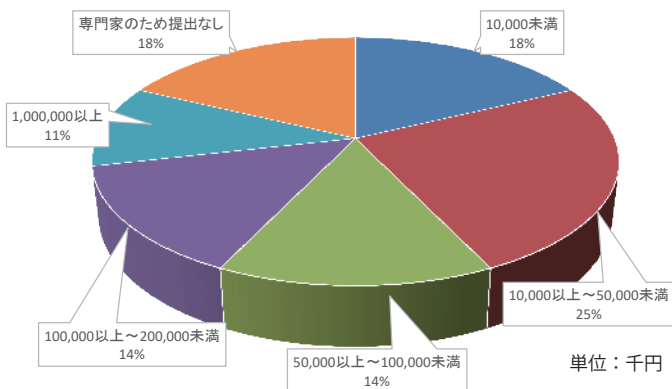
1-1-2

S I C - 1 Startup Lab. 入居企業データ (令和2年3月末)

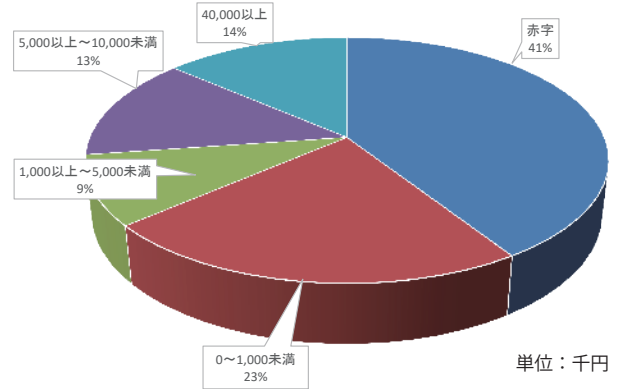
業種



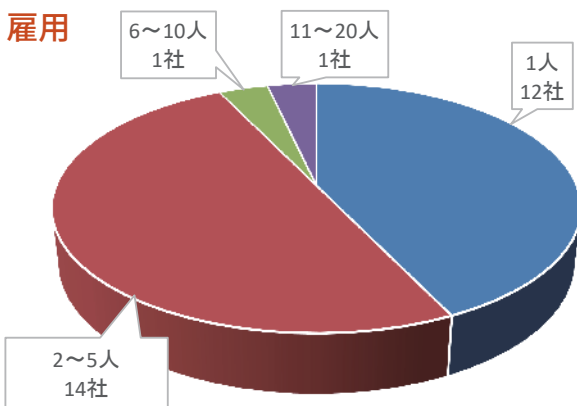
売上高



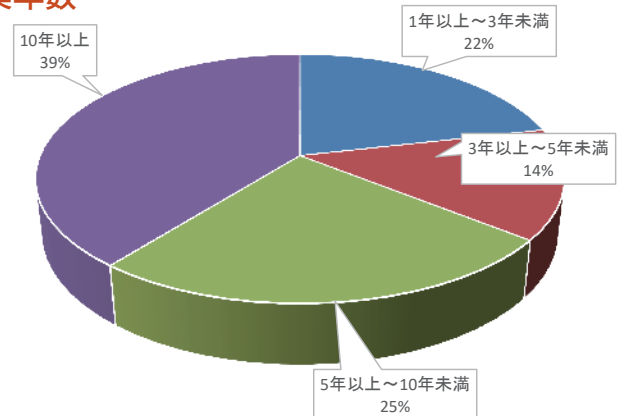
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計	20,388,632 千円
雇用者合計	28 社 75 人

1-2-1

S I C - 2 Creation Lab. (ポストインキュベーションセンター)

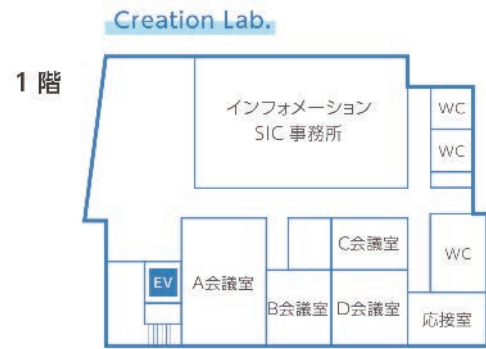
入居対象

<企業>

- ・創業期を経てさらなる規模拡大を目指す企業
- ・新分野進出によりさらなる規模拡大を目指す企業
- ・優れた技術・サービスを保有し、株式公開を目指す企業
- ・企業の研究開発部門

<産学連携企業等>

- ・産学連携による事業化を目指し、共同研究開発を行うグループ、企業、研究者等
- ・大学発の技術を活用し、事業化を目指すグループ、企業、研究者等
- ・大学研究室

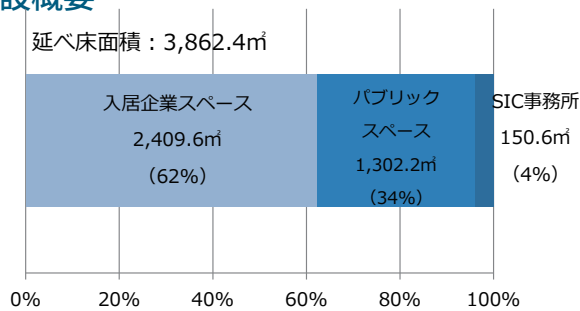


1階平面図

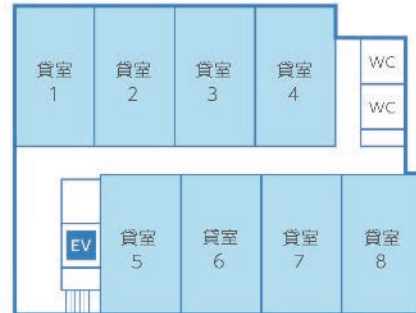
入居期間

3年間 (再契約可能)

施設概要



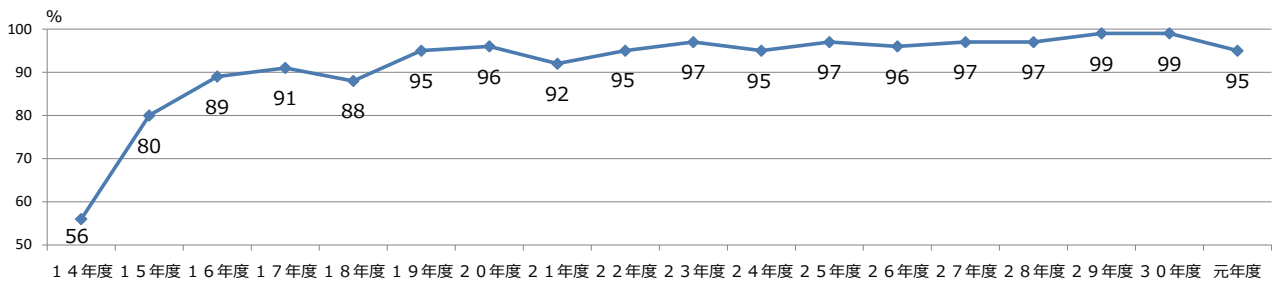
2-7階



2～7階平面図

	セミラボ	オフィス
設置階	2～4階	5～7階
部屋数	24室	24室
床面積	50.2m ²	50.2m ²

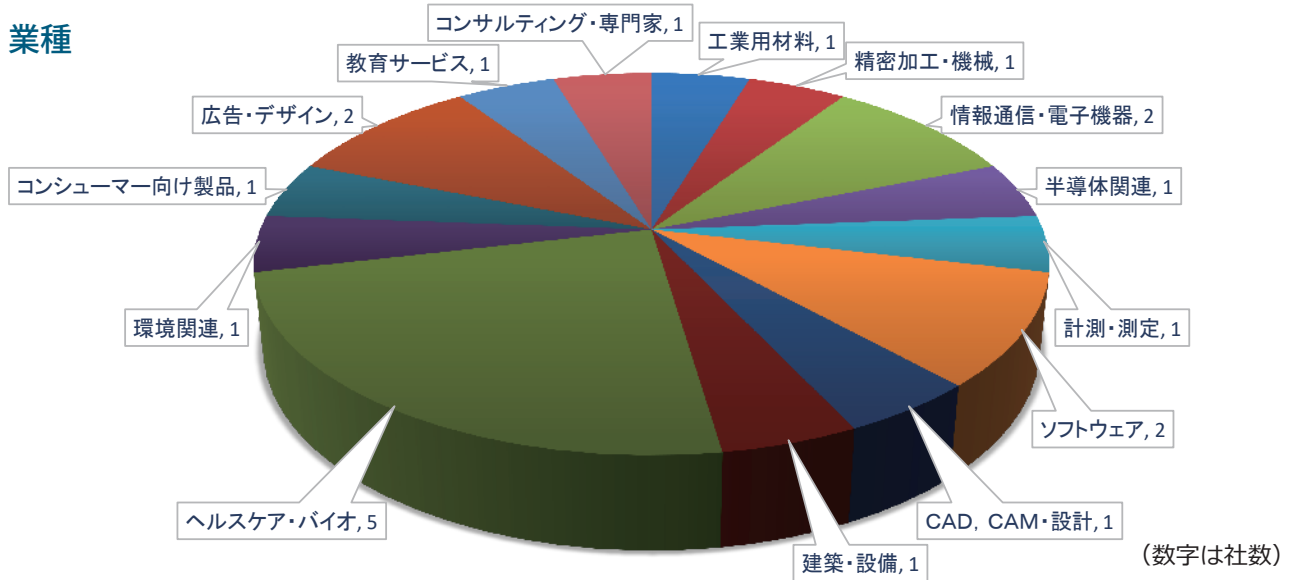
入居率 (賃料ベース)



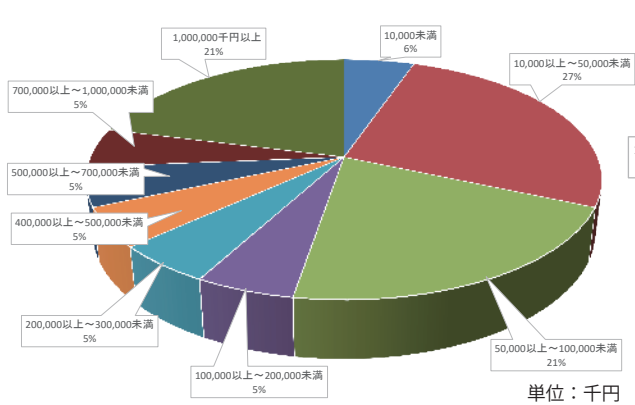
1-2-2

S I C - 2 Creation Lab. 入居企業データ (令和2年3月末)

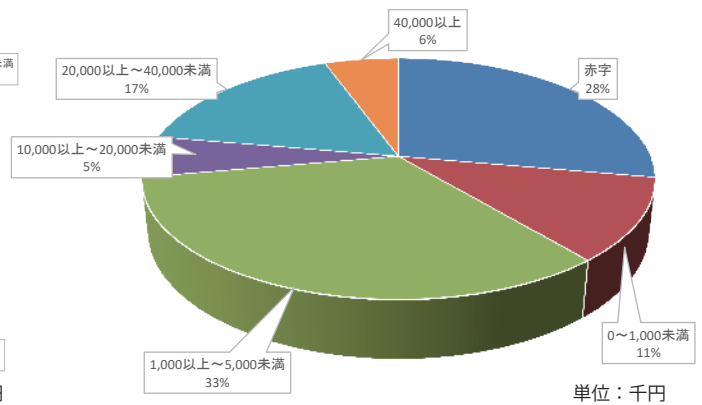
業種



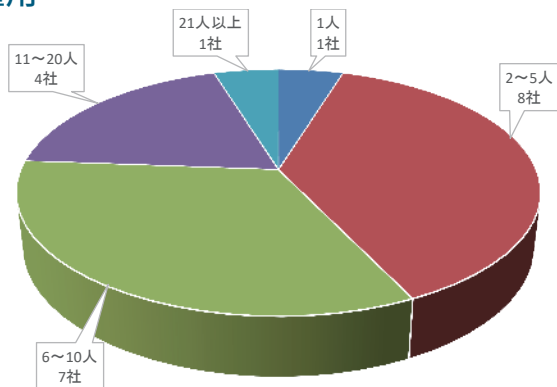
売上高



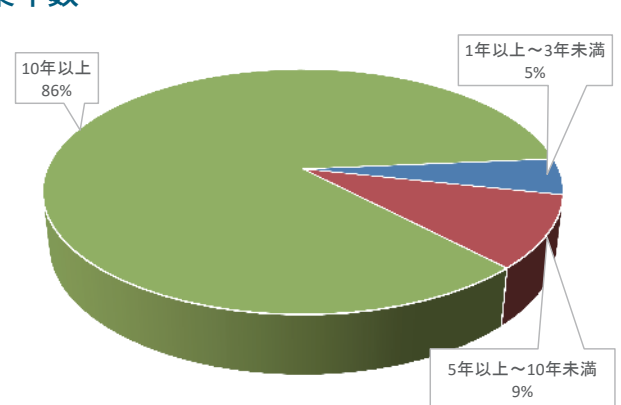
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計	13,434,343 千円
雇用者合計	21 社 161 人

1-2-3

S I C - 2 R&D Lab. (ポストインキュベーションセンター)

入居対象

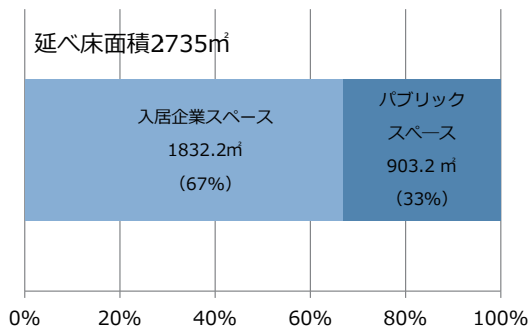
<企業>

- ・インキュベーション施設での創業期を経て、さらなる規模拡大を目指す企業
 - ・新技術や新製品の研究開発を進め、さらなる規模拡大を目指す企業
 - ・新分野進出によりさらなる規模拡大を目指す企業
 - ・企業の研究開発部門
- <産学連携企業等>
- ・大学や企業間の連携による事業化を目指して共同研究開発を行うグループ

入居期間

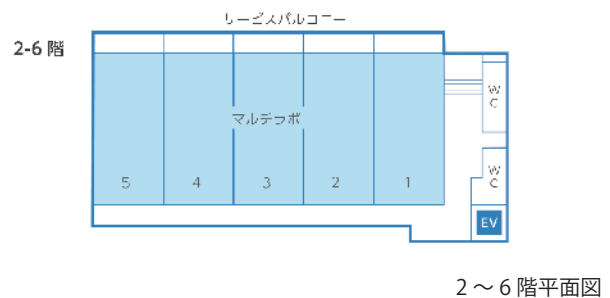
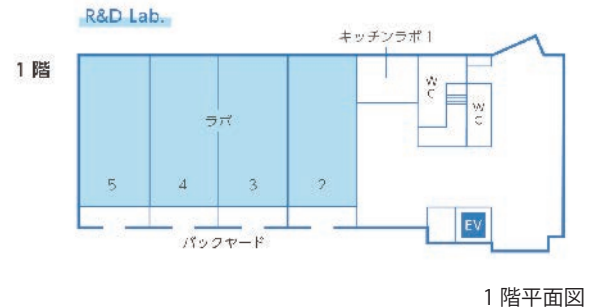
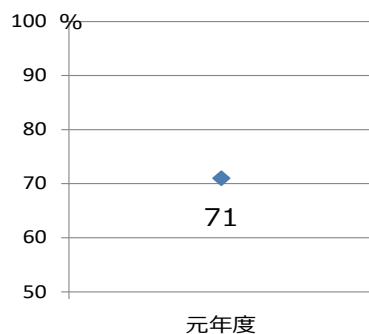
5年間 (再契約可能)

施設概要



	ラボ	マルチラボ
設置階	1階	2～6階
部屋数	4室	25室
床面積	63.18m ²	63.18m ²

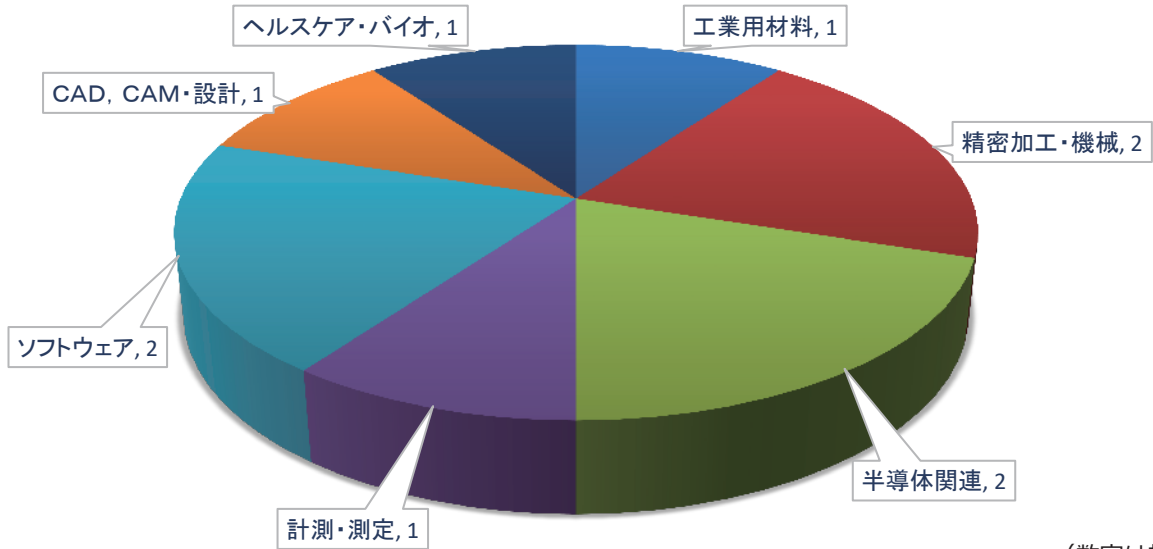
入居率 (賃料ベース)



1-2-4

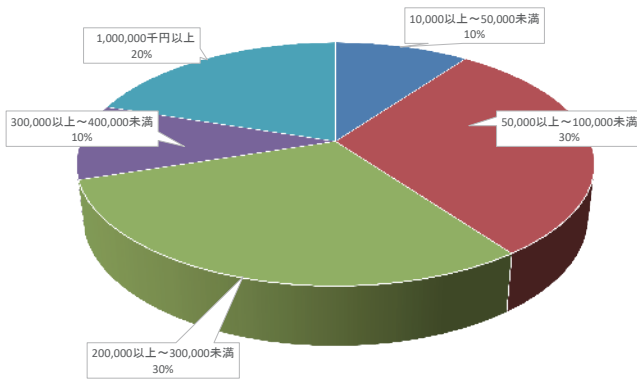
S I C - 2 R&D Lab. 入居企業データ (令和2年3月末)

業種



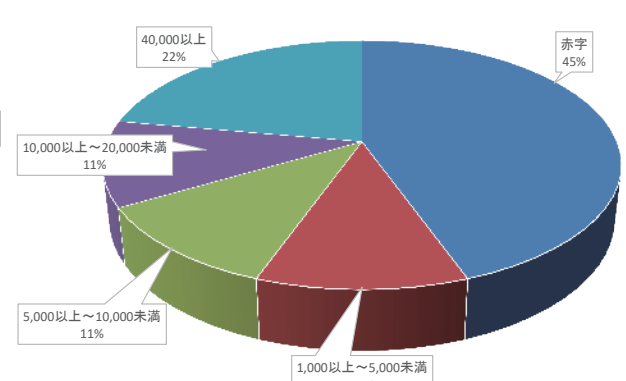
(数字は社数)

売上高



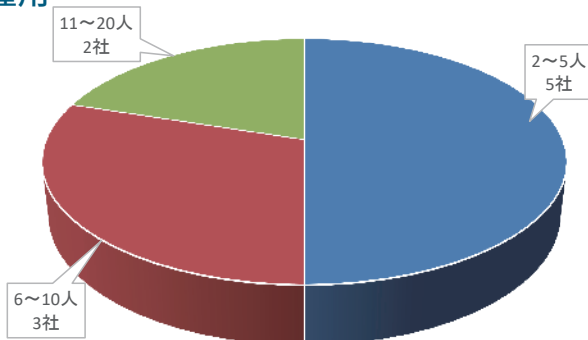
単位：千円

最終利益 (税引き後利益)

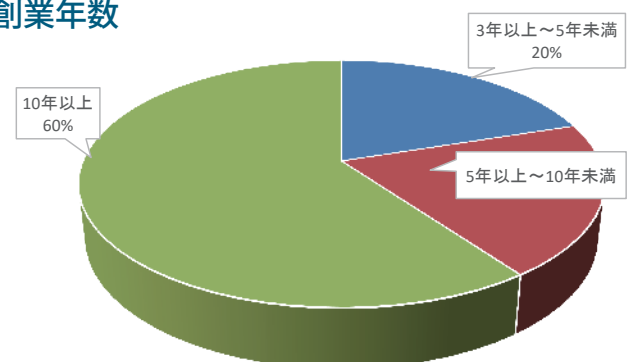


単位：千円

雇用



創業年数



売上高合計	36,379,139 千円
雇用者合計	10 社 69 人

1-3-1

S I C - 3 Innovation Lab. (ポストインキュベーションセンター)

入居対象

<企業>

- ・インキュベーション施設での創業期を経て、更なる規模拡大を目指す企業
- ・独創的な技術により、更なる規模拡大を目指す地域の中小企業

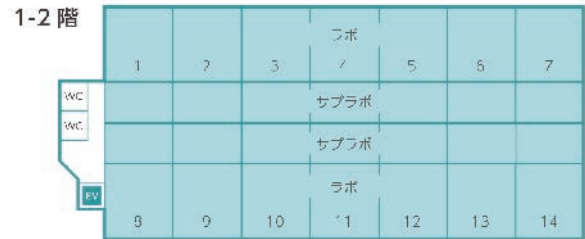
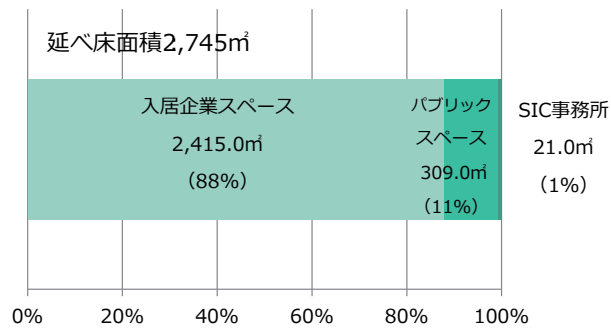
<産学連携企業等>

- ・大学や企業間の連携による事業化を目指して共同研究開発を行うグループ

入居期間

5年間（再契約可能）

施設概要



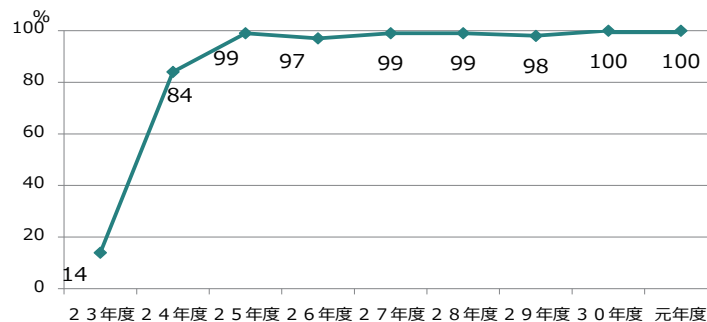
1階, 中2階平面図



3階平面図

	ラボ	セミラボA	セミラボB	オフィスA	オフィスB
設置階	1階 : 中2階			3階	
部屋数	14室	3室	4室	3室	3室
床面積	84m ² : 28m ²	56m ²	28m ²	42m ²	21m ²

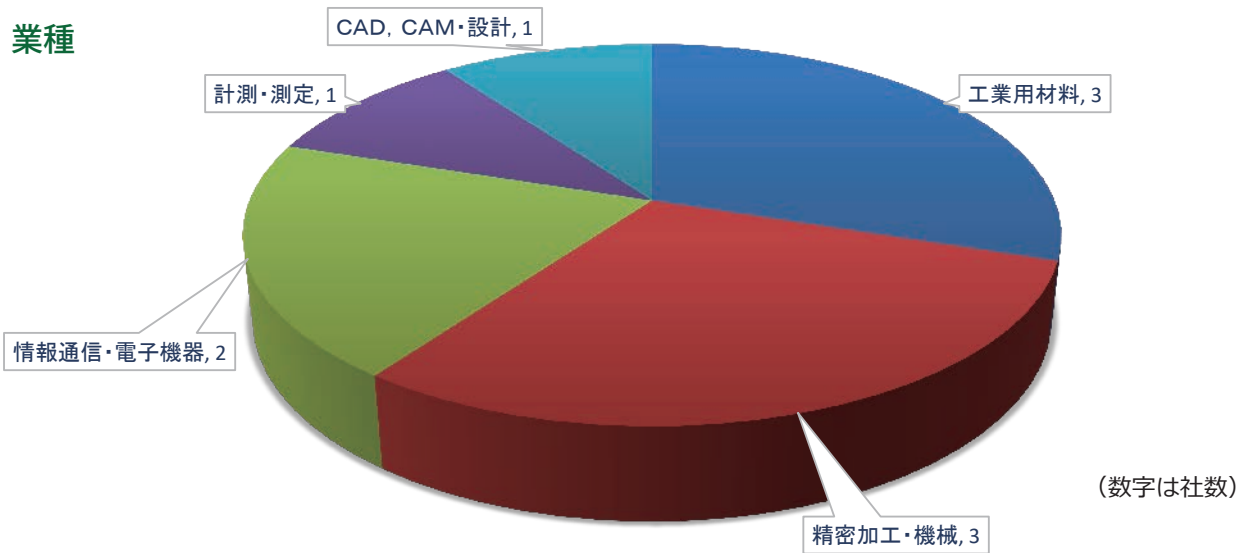
入居率 (賃料ベース)



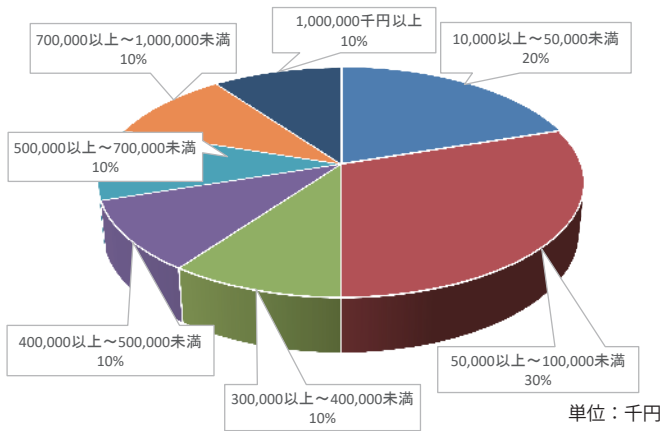
1-3-2

S I C - 3 Innovation Lab. 入居企業データ (令和2年3月末)

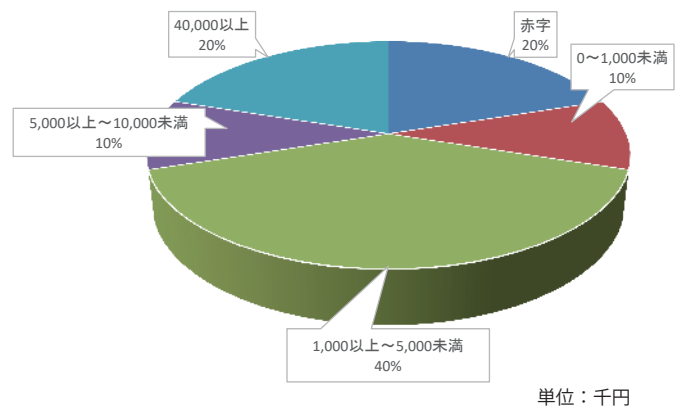
業種



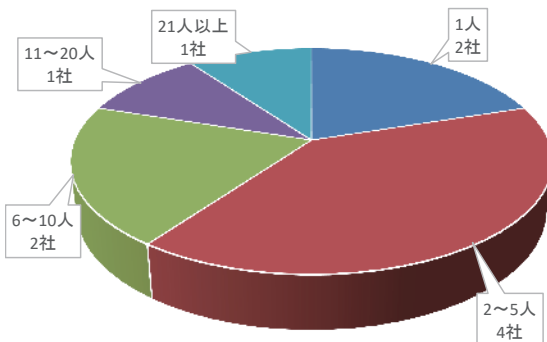
売上高



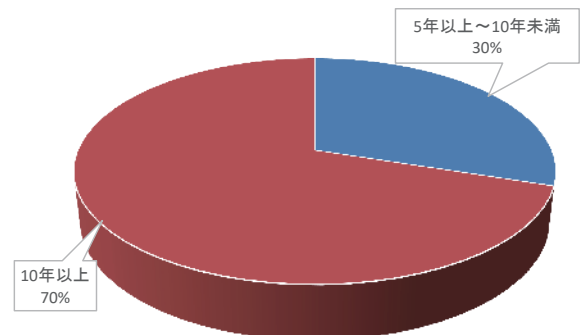
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



売上高合計	3,679,438 千円
雇用者合計	10 社 72 人

1-4

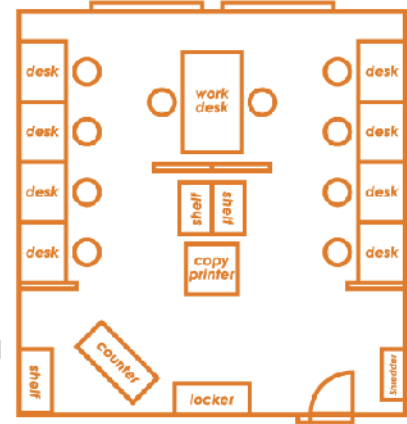
Desk¹⁰ (インキュベーション型シェアードオフィス)

Desk¹⁰とは

Desk10 (デスクテン) は創業者または創業準備中の方などがビジネスに必要な機能を他の会員とシェアすることでオフィスがリーズナブルに利用できるサービスです。事務機器や会議室なども利用できて、住所使用も可能。しかも、サービスを提供するのは19年以上にわたるインキュベーション施設を運営しているSICで、経験豊富なインキュベーションマネージャーも常駐しています。

各種サービス

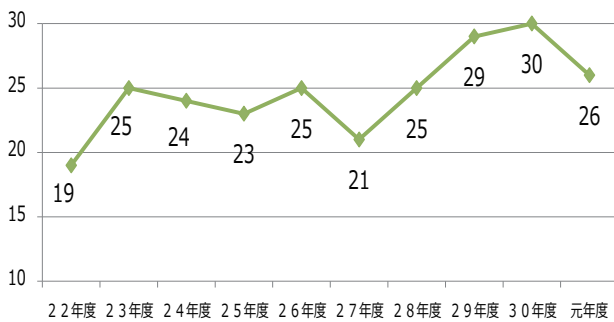
デスク(フリーアドレス)、ワークスペース、オフィス機器、住所使用、専用ロッカー、打ち合わせ・商談スペース、リフレッシュルーム、貸し会議室



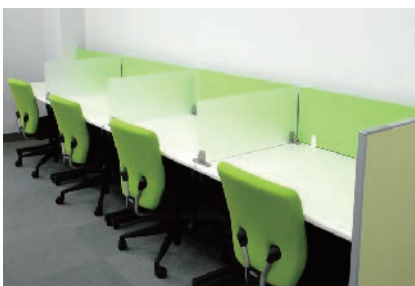
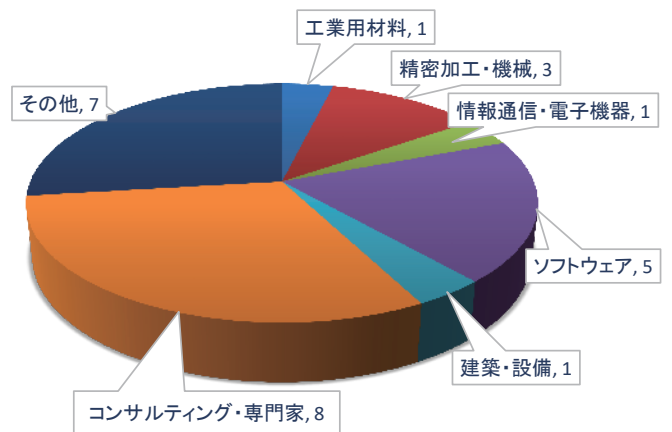
オフィス平面図

入居者数

者・人・企業



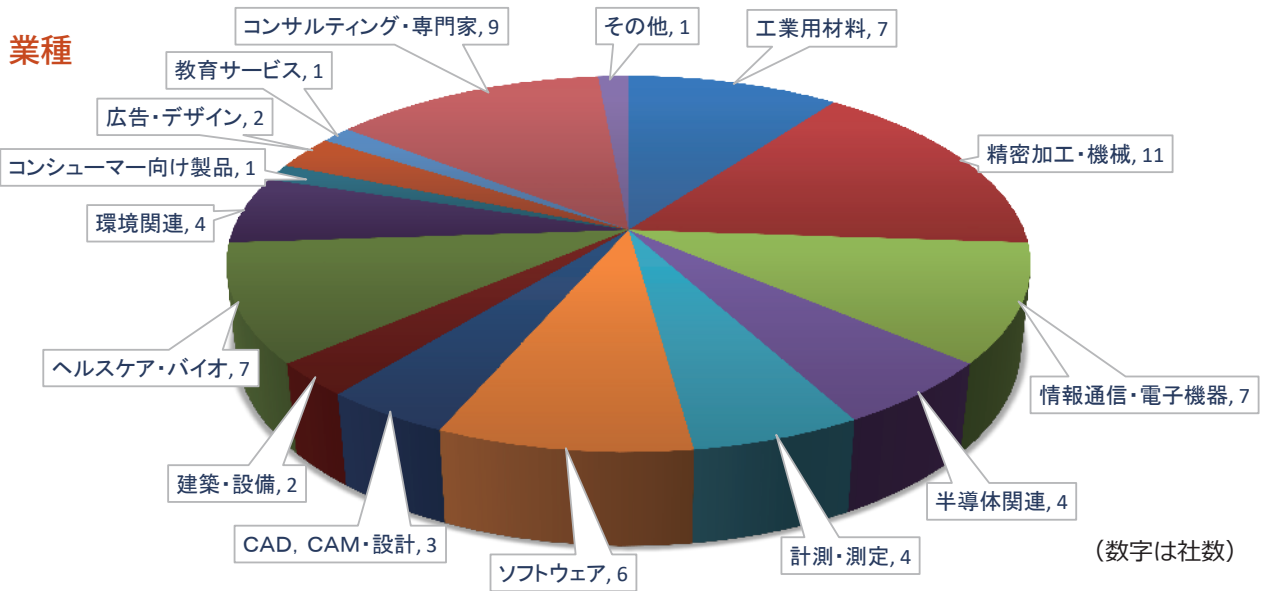
業種



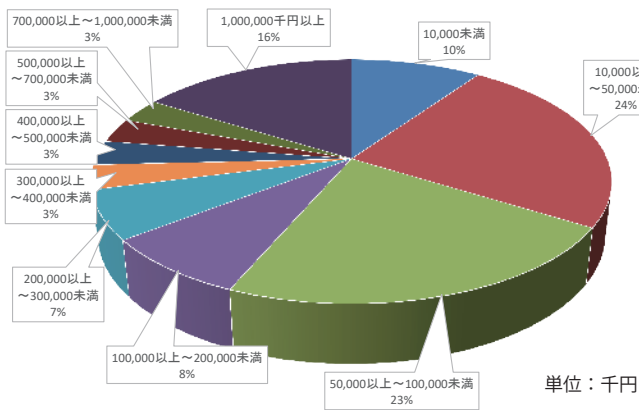
1-5-1

S I C 全体

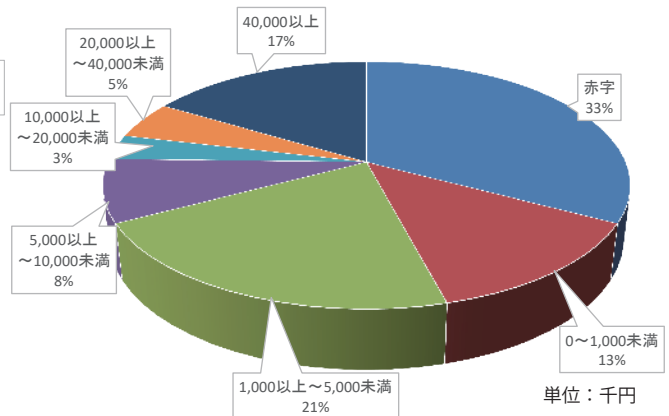
入居企業データ (令和2年3月末)



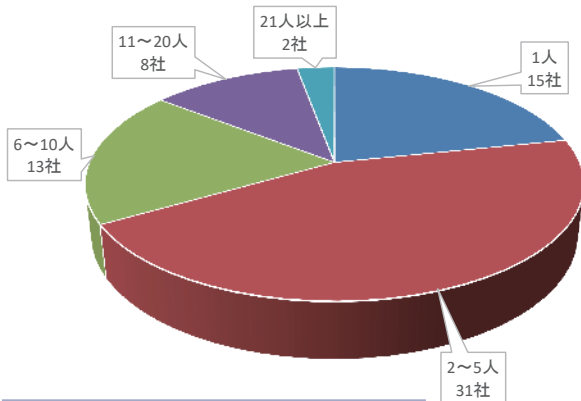
売上高



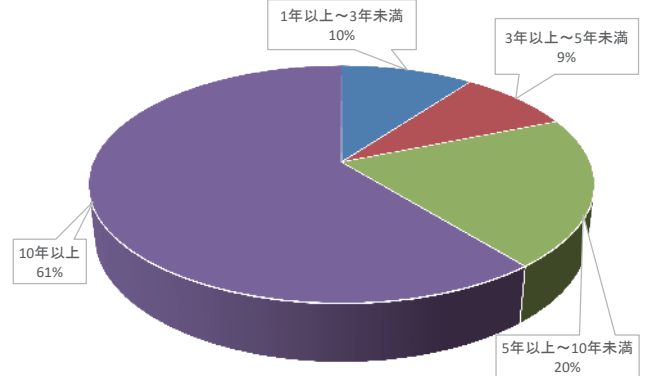
最終利益 (税引き後利益)



雇用



創業年数



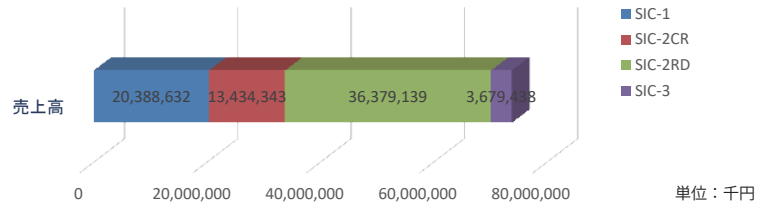
売上高合計	73,881,552 千円
雇用者合計	69 社 377 人

1-5-2

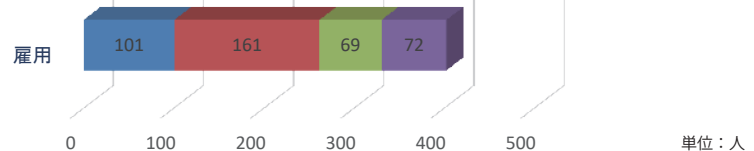
S I C 全体

入居企業データ (令和2年3月末)

売上高 73,881,552 千円



雇用 403 名



知的財産 (令和元年度内)

	特 許		実 用 新 案		意 匠		商 標	
	企業数	件数	企業数	件数	企業数	件数	企業数	件数
出願数	10	21	0	0	0	0	2	8
うち海外	1	1	0	0	0	0	0	0
権利化数	4	14	0	0	0	0	3	8
うち海外	0	0	0	0	0	0	1	1

研究開発補助金 ◇ 展示会出展 ◇ 新製品・新サービス (令和元年度内)

研究開発補助金 9社 10件

平成30年度補正ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金、平成30年度補正ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金、令和元年度地域復興実用化開発等促進事業費補助金、令和元年度中小企業経営支援等対策費補助金、航空機用先進システム実用化プロジェクト、希少疾病用医薬品事業化支援、小規模事業者持続化補助金、相模原市産業用ロボット導入補助金、相模原市ロボットビジネス推進企業等集積促進補助金

展示会出展 (海外開催含む) 23社 49件

テクニカルショウヨコハマ2019、OPIE'20、Bio Japan 2020、セミコンジャパン、ER&IoT Technology2019、採用広がる車載 Ethernet 自動運転やコネクテッドの要、光通信技術展 FOE2019、Interop Tokyo2019、産業交流展 2018、ワイヤレスジャパン 2019、InterBEE2019、獣医アトピー・アレルギー免疫学会、動物臨床医学会年次大会、ネブコン電子部品・材料 EXPO2020、サイドジャパン (化粧品)、健康食品展覧会 (食品)、IFIA (食品)、軽金属学会春期大会/秋期大会、日本金属学会春期/秋期講演大会、日本顕微鏡学会学術講演会、CEATEC2019 (北陸電気工業 (株) ブース内)、IEEE World Haptics Conference 2019、BITEC (タイ)、M-TECH (機械要素技術展) 東京、NEPCON SOUTH CHINA (中国)、ロボテックス (インターネブコン)、「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム、テクノスターユーザカンファレンス 2019、EV・PHV 普及活用技術展「EVEX2019」、EV・HEV 駆動システム技術展、新価値創造展 2019 (第15回中小企業総合展)、2019 国際ロボット展、iREX2019、2019 国際ロボット展、テクニカルショウヨコハマ 2020、駅と空港の設備機器展、テロ対策特殊装備展 (SEECAT)、ワイヤレスジャパン、DSEI Japan、画像センシング展、国際画像機器展、人とくるまのテクノロジー展 2019 名古屋、第10回アジア応用超電導低温工学会議、第32回国際スーパーコンダクティブシンポジウム、高精度・難加工技術展 2019、産業交流展 2019、中小企業新ものづくり・新サービス展 2019、第16回日本加速器学会年会企業展示、FOOMA2019

新製品・新サービス 18社 28件

(仮称) 活性炭再生装置、リティンパ耳科用 250μg セット、超微量炭化装置、Unirom 93PM (SRT 日本仕様)、車載イーサネット通信品質測定器、CareView1800IF、CareVision560IF、宿泊施設向け Bluetooth アンプ、2.4GH z デジタルワイヤレスイヤホンモニター、スマートフォン型音声ガイド、グミ (食品) の光沢剤、脱毛ワックス (業務用)、ROPA (旧オーステナイト粒再構築ソフトウェア)、CAE ソフト μ-EXCEL サブスクリプションサービス、鉄道車輻業務、駅ホーム扉業務、美容液 (ルーエ MD)、Wizard Easy Programming software、Digital service free of charge、業務用ドライ掃除ロボット Asion、TIG 溶接協働ロボットシステム Co TIGWelders、Private LTE 関連製品、G.fast モデム、IP カメラ、産業用ルータ、OPTAGIS / 光学系構築サービス、誘電率測定装置、画像処理システム

2-1

経営サポート

企業支援

事業の目的

創業や新分野進出に意欲的な入居企業や地域企業の様々な経営課題を解決する。

▶ 経営課題支援の内容

対 象：入居企業・地域企業

支援手法：インキュベーションマネージャーとメンター、アドバイザー、専門家等が連携した支援

協力機関：きらぼし銀行

支援契約数：業務委託契約 10 社、顧問契約 14 社（入居企業 10 社、地域企業 4 社）

支 援 内 容		入居 企業数	地域 企業数	計
顧問契約		10 社	4 社	14 社
業務委託契約	WEB制作	—	1 社	1 社
	製品・サービス案内制作	—	1 社	1 社
	生産性向上	—	2 社	2 社
	特許・商標等取得	—	2 社	2 社
	補助金申請サポート	—	1 社	1 社
	マーケティングリサーチ	1 社	—	1 社
	ビジネスマッチング	1 社	1 社	2 社
	業務委託契約 小計	2 社	8 社	10 社
合計		12 社	12 社	24 社

2-2-1



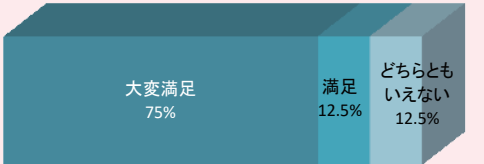

経営サポート

セミナー

事業の目的

入居企業や地域企業に経営のヒントを提供する。

対 象：入居企業・地域企業

実施事業	参加人数	具 体 的 内 容
経営者セミナー	90名	<p>テーマ：ガチで海外と価格競争。300年ものづくり企業への方程式～生産性向上の本質と”マインドセット”～</p> <p>講 師：武州工業株式会社 代表取締役 林 英夫 氏</p> <p>日 時：令和元年11月12日（火）</p> <p>場 所：サン・エールさがみはら（2F ホール）</p> 
ミニセミナー	14名	<p>The HINT 44</p> <p>テーマ：伝わる提案・プレゼン資料の作り方</p> <p>講 師：ストラテック株式会社 代表取締役 宇崎 勝 氏</p> <p>日 時：令和元年7月24日（水）</p> <p>場 所：さがみはら産業創造センター</p> 
	8名	<p>The HINT 45</p> <p>テーマ：ワーク・エンゲイジメントを知っていますか？</p> <p>講 師：桜美林大学 健康福祉学群 准教授 松田 与理子 氏</p> <p>日 時：令和元年9月30日（月）</p> <p>場 所：さがみはら産業創造センター</p> 
	11名	<p>The HINT 46</p> <p>テーマ：経営者の身だしなみとイメージ戦略～第一印象から差をつけるには～</p> <p>講 師：さがみはら表面技術研究所 所長 須藤 理枝子 氏</p> <p>日 時：令和元年11月26日（月）</p> <p>場 所：さがみはら産業創造センター</p> 

2-3

技術開発

さがみはら表面技術研究所

事業の目的

地域企業と大学・研究機関の連携・交流機能を整備・運用し、企業の技術的な強みを活かした事業開発に貢献する。

▶ 活動実績

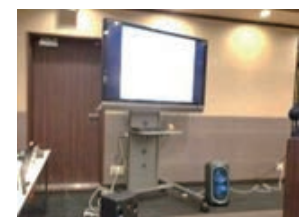
活動内容	
1	技術相談・コーディネート・技術支援等
2	交流・広報活動（講演・ラジオ出演等）



▶ 活動実績 事例

1. 技術相談・コーディネート・研究支援等

- ①ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金（平成 30 年度補正・中小企業庁）では、各中小企業向けに事業計画立案から関わり、申請書の作成指導まで一貫した支援を行った。また補助事業採択後は、事業進捗アドバイスや補助事業完了後のサポートに至るまで、多岐にわたる業種の中小企業に対して支援を行った。
- ②過年度ものづくり補助金採択事業者への事業化相談や事業化状況報告支援を行った。
- ③経営力向上計画申請についての相談・申請支援を多岐にわたる業種の中小企業に対して行った。
- ④先端設備等導入計画申請についての相談・申請支援を多岐にわたる業種の中小企業に対して行った。
- ⑤事業継続力強化計画申請についての相談・申請支援を多岐にわたる業種の中小企業に対して行った。
- ⑥製菓企業の生産性向上を高めるために、機械化の促進と新規商品の開発企画を推進した。
- ⑦製造業企業の中堅社員に向けた人材育成研修・IT 導入支援等を定期的に実施した。
- ⑧「かながわロボットイノベーション 2019」へ出展し、県内企業をはじめとする関東近郊企業との交流連携、市場調査等を行った。
- ⑨製造業と国立大学の実用化に向けた共同研究を推進するためのアドバイスを行った。
- ⑩戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン・経済産業省）の継続調査の支援と報告を行った。
- ⑪女性起業家向けのセミナーを行い、マーケティング・ブランディング等の重要性を伝えた。



2. 交流会・広報活動（講演・ラジオ出演等）

- ①立教大学名誉教授・山口義行氏が主宰する、中小企業サポートネットワーク Small Sun 配信のインターネットラジオ「トモトリエコのモノづくりサポーターズ」でパーソナリティを務め、様々なものづくり企業を紹介している。
(<http://ss-ir.blogspot.jp/search/label/>)
- ②各種企業団体等での講演者として招聘され、表面研の活動を通してオープンイノベーションや補助金活用事業化成功事例などを伝えた。



2-4-1-1

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（フォーラム）

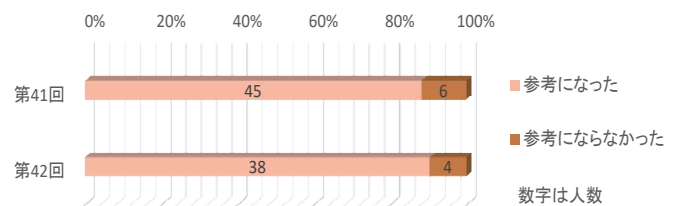
事業の目的

相模原市を中心とした神奈川県県央地域及び町田市、八王子市に広がる首都圏南西地域において、企業、大学・研究機関、金融機関及び支援機関の広域連携の場として首都圏南西地域産業活性化フォーラムを開催し、さらには、産学官連携による分科会・研究会の推進や情報提供を通じ、新事業の創出や技術の高度化などによる地域産業の活性化を目指す。

参加者数

南西フォーラム	
第41回	114名
第42回	110名
計	224名

顧客満足度



顧客の声

- 【第41回】・産学連携について安易に考えていたことに気づいた。また、最新の技術知見を見聞き、取得できる事が理解できました。
 - ・具体的な産学連携事例を聞いて連携のきっかけや成功した理由、失敗した理由について詳しく知る事ができました。
 - ・産学連携を成功させるには、企業の側の主張（目的）をどう表現できるかが問題だと思った。
- 【第42回】・製造業にはあまり関係ないと思っていましたが、様々な事例を見ることができてよかったです。いつかは挑戦してみたいと思いました。
 - ・オープンイノベーションとは何か？ということについて、取組み方や中小企業の立場からどの様に活用できるか理解できました。
 - ・中小企業でも大企業にライセンス費用を出し、自社製品をつくる事が出来る事が参考になりました。また市からの補助金をうまく使う事が重要であることを学べました。

概要

南西フォーラム	第41回 令和元年9月10日（火）
	“産”と“学”とで紡ぐ、中小企業イノベーション～新技術・新製品を生み出す多様な産学連携事例～
	基調講演「事例から読み解く、中小企業による産学連携」
	一般社団法人首都圏産業活性化協会 産学官連携コーディネーター 堺奈都氏 (東京都立産業技術研究センター 特任技術アドバイザー)
	分科会 A「大学等の産学連携推進体制」分科会
	A-1「相模原キャンパスを拠点としたリエゾンセンターの取組みについて」
	青山学院大学 リエゾンセンター 副センター長 黄晋二氏 (理工学部 電気電子工学科 教授 / 博士 (工学))
	A-2「神奈川工科大学の地域社会・企業への貢献について」
	神奈川工科大学 工学教育研究推進機構 リエゾンオフィス コーディネーター 深堀 健一氏
	A-3「産学連携を企図した新校舎、コラボレーション・コモンスの紹介」
	東京工業高等専門学校 総合教育支援センター センター長 / 准教授 庄司 良氏 コラボレーションセンター 主任 向川 拓臣氏

2-4-1-2

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（フォーラム）

南
西
フ
ォ
ー
ラ
ム

分科会 B「中小企業による産学連携」分科会

B-1「従業員6名！町工場が挑む大学との新技術開発」

有限会社山内エンジニアリング 営業部長 郡司 章 氏

B-2「産学連携、成功の鍵は“タイミングと目標・役割分担の明確化”！」

株式会社メディアプラス（現・株式会社メディアロボテック） 代表取締役 金沢 勇 氏

B-3「医療機器を主力事業へ！医工連携による自社製品開発」

株式会社志成データム 代表取締役 斎藤 之良 氏

第42回 令和2年2月3日（月）

オープンイノベーションの波に乗れ！～中小・ベンチャーの挑戦から学ぶ成功のセオリー～

基調講演「オープンイノベーションの推進と関東経済産業局の取組み」

関東経済産業局 地域経済部 産業技術革新課長 門田 靖 氏

○事例発表1 「セッション：ベンチャー企業 × 大手企業 世の中を変えるイノベーション実現へ！」

講演者 株式会社アジラ 代表取締役兼 CEO,PMP 木村 大介 氏

FUJITSU ACCELERATOR 事務局 池田 健介 氏

モデレーター 株式会社町田新産業創造センター インキュベーション事業部 部長 今井 俊男 氏

○事例発表2 「セッション：中小企業 × コーディネーター 未来をつかむ新規事業への挑戦！」

株式会社スタックス 代表取締役社長 星野 妃世子 氏

公益財団法人川崎市産業振興財団 知的財産コーディネーター 西谷 亨 氏

○フォーラムを振り返って「オープンイノベーションによる可能性と留意ポイント」

関東経済産業局 地域経済部 産業技術革新課長 門田 靖 氏



第41回南西フォーラム



第42回南西フォーラム

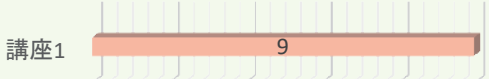
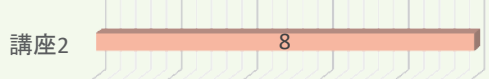
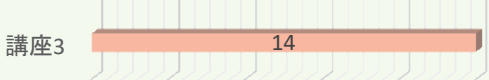
2-4-1-3

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（フォーラム）

▶ フォローアップの取り組み

昨年度、第40回南西フォーラムでのフォローアップとして『AIミニセミナー』を開催し、今年度も継続してフォローアップ活動を実施した。また、第41回フォーラムのフォローアップとして、首都圏南西地域内での多くの産学連携を創出することを目指す中で、まずは個別企業の実態をつかむため、ヒアリング活動を展開した。

実施	《開催概要と結果》
AI チャレンジ講座	<p>【講座1】 日時：令和元年11月25日（月） 場所：さがみはら産業創造センター 内容：「デジタルトランスフォーメーションと自社のAI活用を考える」 株式会社グリーンノート 代表取締役社長 立石 彰 氏 参加者：12名 顧客満足度： 0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>  <p>■ 参考になった回答者9名</p> <p>顧客の声：・実際のビジネスの話を交えながらで、よく理解できました。 ・AI活用においては費用対効果をよく見極める必要があることがわかりました。</p> <p>【講座2】 日時：令和元年12月4日（水） 場所：さがみはら産業創造センター 内容：「今更聞けないAI（機械学習）応用—組織のノウハウを機械学習で継承—」 青山学院大学 理工学部 経営システム工学科 教授／博士（工学） 小野田 崇 氏 参加者：12名 顧客満足度： 0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>  <p>■ 参考になった回答者8名</p> <p>顧客の声：・具体的な事例で、イメージしやすいので聞いていて面白かったです。 ・自分のAIについての知識をもう一段上げることが出来ました。</p> <p>【講座3】 日時：令和元年12月16日（月） 場所：さがみはら産業創造センター 内容：「人工知能と人とのコラボレーション（自動作曲の事例含む）」 東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科 教授／博士（情報理工学） 大谷 紀子 氏 参加者：17名 顧客満足度： 0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>  <p>■ 参考になった回答者14名</p> <p>顧客の声：・自動作曲のシステムが、今後発展すると面白いと感じました。 ・AIは創作活動の補助的な役割になるのだと感じました。</p>
第41回フォーラムフォローアップ活動	<p>第41回南西フォーラムの参加者の内、当日アンケートに産学連携への関心を示す回答をされた企業2社に対してヒアリングを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A社（市内システム開発業）は既に大学との連携を実施しており、共同開発においては企業が独自に進めていきたい意向であったが、さらに大学等との関係を広げていくために情報共有や交流の場を求める意見があった。 ・B社（市内製造業）は大学からのインターンシップ生の受け入れや、研究室で開発された技術を試作機に実装する依頼などを受けることがあるとのこと。しかし、同社からの主体的な産学連携についての実績はなく、今のところ具体的な開発テーマはないものの、大学のシーズ紹介やマッチングを継続的に行ってほしいとの意見があった。

2-4-2-1

技術開発

首都圏南西地域連携サポート事業（分科会）

事業の目的

相模原市を中心とした神奈川県県央地域及び町田市、八王子市に広がる首都圏南西地域において、企業、大学・研究機関、金融機関及び支援機関の広域連携の場として首都圏南西地域産業活性化フォーラムを開催し、さらには、産学官連携による分科会・研究会の推進や情報提供を通じ、新事業の創出や技術の高度化などによる地域産業の活性化を目指す。

概要

IoT 分科会

相模原市におけるIoT関連技術開発および事業開発を推進することを目的に、産官学連携の場を作るとともに、具体的な開発テーマを設定し、技術開発・製品開発・市場開発を推進するための取り組み4年目として、多方面からの議論を行った。

①IoT 分科会活動 ＜研究会＞

		開催日	場所	内容	参加者数
IoT 分科会	第1回 (前半)	令和元年5月22日(水)	相模原市役所	地域におけるIoT推進について	7名
	第1回 (後半)		さがみはら 産業創造センター	日本企業におけるIoT実装の現状と展望	13名
	第2回	令和元年7月17日(水)	さがみはら 産業創造センター	・相模原地域におけるIoT普及に向けたPR活動について ・研究会参画企業の活動状況報告	12名
	第3回	令和元年9月11日(水)	さがみはら 産業創造センター	相模原地域におけるIoT事例の情報収集について	12名
	第4回	令和元年11月13日(水)	さがみはら 産業創造センター	・IoT事例研究(株式会社シェーン) ・研究会参画企業の活動状況報告	12名
	第5回	令和2年1月30日(木)	さがみはら 産業創造センター	・IoT事例研究(株式会社リガルジョイント) ・研究会参画企業の活動状況報告	12名

＜ワーキング・グループ＞

		実施回数	場所	主な内容
ワーキング・グループ	サレジオ工業高専専門学校 ワーキング・グループ	全2回 ※第2回は新型コロナウイルスの影響で中止	サレジオ工業 高等専門学校	精密精密農業向けIoT技術開発など
	AI実装 ワーキング・グループ	全7回	さがみはら 産業創造センター	AI実装に向けての技術検討、実際のシステムの検討および指導
	食農 ワーキング・グループ	全15回	さがみはら 産業創造センター	食事と農業とのつながりの研究を通して、地域コミュニティにおける技術導入(IoT技術など)による効果的な社会構築の検討を行った

②ホームページでの活動周知

IoT分科会の事業スキームの説明、会員企業のIoT関連活動の紹介(本年度は(株)シェーンと(株)リガルジョイントの2社)のページを、既存の南西フォーラムHP(<https://www.nansei-forum.jp/>)内に新設した。

2-5-1

技術開発

産業用ロボット導入支援事業

事業の目的

ものづくり中小企業を中心とした相模原市内企業への産業用ロボット導入支援を通して、人手不足等の経題を抱える企業の生産性向上等を図る。また、市内におけるロボット関連企業の育成や集積等に取り組むことにより、ロボット産業の創出を通じた地域産業振興を図る。

概要

(1) さがみはらロボット導入支援センター

SIC-2 R&D Lab.ラボ内に設置している「さがみはらロボット導入支援センター」で、産業用ロボットの展示、自動化相談及びロボット操作教育などを実施。

○来所者実績（平成31年4月～令和2年3月の1年間）
延べ265団体・975名（内、製造業者：165社）

○ロボットシステム 6システム設置・展示



(2) ロボット導入を具体的に検討する企業向けの相談・コンサルティング

産業用ロボット導入が進んでいない工程への導入を支援するために、ロボット導入を検討する企業への簡易自動化相談及び自動化診断などの活動を実施。

活動内容	企業数	市内企業数	市外企業数
窓口相談 さがみはらロボット導入支援センターでの相談	8社	5社	3社
出張相談 工場の自動化診断を経て、ロボットによる自動化システム、作業改善・工程改善による生産性向上施策などの提案	6社	4社	2社

(3) カイゼン支援事業

中小製造業の技術者を対象に自動化や省人化を進めるうえでの知識や考え方など、中小企業の実産性向上に資するセミナーを開催。

「改善基礎セミナー」（受講者数：13社・22名）

講師：青山学院大学 理工学部 経営システム工学科 教授 松本 俊之氏

「自動化検討セミナー」（受講者数：17社・19名）

①工場自動化のすすめ～産業用ロボット導入のポイント～

講師：株式会社未来創造技術研究所 代表取締役 宮川 孝文氏

②ロボット導入による社内イノベーション～ロボット導入の成功・失敗事例を交えて～

講師：株式会社アラキエンジニアリング 代表取締役 荒木 弥氏

③低コスト・省エネな自動化“からくり改善”のご紹介

講師：公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 普及推進部 角田 英政氏



改善基礎セミナー

2-5-2

技術開発

産業用ロボット導入支援事業

(4) ロボット技術者育成事業

中小企業の技術者が産業用ロボット導入に必要な知識及び技術を習得することを目的にセミナーを開催。

「改善実践セミナー」(受講者数: 17社・21名)

①工場自動化のための安全対策の考え方

講師: 日本認証株式会社 SA 事業部 教育事業部 部長 栃尾 昌洋 氏

②ロボットを導入したい工場が考えるべきこと

講師: 株式会社カイゼン・マイスター チーフ・アドバイザー 志貴 正尚 氏

③ロボットシステム導入のポイント～ロボット導入プロジェクトの各フェーズにおける注意点の確認～

講師: JET 株式会社 代表取締役 遠藤 法男 氏



シーケンス制御 (基礎)

「ロボット操作教育 (基礎)」(6社・8名)

講師: 三菱電機システムサービス株式会社 太田 忠靖 氏 / 芳賀 雄太 氏

「ビジョンセンサの“活かし方”講座」(9社・10名)

講師: 三菱電機株式会社 FA システム事業本部 ロボット・センサ G 小笠原 忍 氏

「シーケンス制御 (基礎)」(受講者数: 7社・10名)

講師: 株式会社バイナス 技術部 部長 坂口 雅浩 氏

(5) オープンソースプログラマ育成事業

オープンソースによるロボット制御プログラミングの先進的な知識と開発能力の企業間における共有を目的として、相模原商工会議所による「さがみはら HSR 社会実装研究会」の活動に対して、主に生活支援ロボット“HSR”の開発元であるトヨタ自動車株式会社との窓口の役割として協力。

(6) システムインテグレータ育成事業

システムインテグレータとそこに従事するロボットエンジニアが産業用ロボット導入に必要な存在であるにも関わらず圧倒的に不足している状況を解決するために、専門人材の育成に必要な高度教育を実施。

○産業用ロボットビジネスフォーラム (参加者数: 144名)

日 時: 令和元年 8 月 1 日 (木)

場 所: サン・エールさがみはら (講演: ホール / 交流会: 第 1 研修室)

共 催: FA・ロボットシステムインテグレータ協会 (Sler 協会)

テーマ: ～ロボット × マッチング × さがみはら～ with Sler's Day in さがみはら

内 容: 1. 開会挨拶 東京大学 名誉教授 佐藤 知正 氏

2. プログラム

(1) 『企業連携による“24時間 365日 無人稼働工場”への挑戦～ひろしま生産技術の会を事例に～』

講演者: 株式会社ヒロテック 生産技術研究所 国枝 潤 氏

(2) 『Slerの事例にみるロボットシステム導入のポイント～自動化の相談・依頼から導入まで～』

講演者: JET 株式会社 代表取締役 遠藤 法男 氏

(3) 『“自動化・ロボット導入のパートナー (Sler)”をマッチングする相模原市の取り組み』

講演者: さがみはらロボット導入支援センター コーディネータ 佐々木 健雄

3. 閉会挨拶

FA・ロボットシステムインテグレータ協会 会長 久保田 和雄 氏 (三明機工株式会社 代表取締役社長)

4. 交流会

2-5-3

技術開発

産業用ロボット導入支援事業

○ロボットSler養成講座（受講者数：18社・24名）

期 間：令和元年8月5日（月）～令和元年10月18日（金）（全9回）

場 所：さがみはら産業創造センター、サン・エールさがみはら、社のホールはしもと、実習先企業

内 容：

	内 容	講 師
第1回	戦略的ヒアリング力とロジカルプレゼンテーション力	株式会社スタンコミュニケーションズ
第2回	産業用ロボット導入手順講座 ～ロボット導入による社内イノベーション～	株式会社アラキエンジニアリング
	付加価値に着目したシンプルな設備設計	青山学院大学 教授 松本 俊之 氏
第3回	グループワーク事前説明 (案件説明、ヒアリング、現地調査)	
第4回	中間発表	
第5回	工場見学	
	グループワーク	
第6回	ロボットSlerのための安全講座	日本認証株式会社
第7回	ロボットシステム導入を成功に導くプロジェクトマネジメント講座	アイシンク株式会社
第8回	公的研究開発プロジェクト提案にあたってのポイント	東京大学 名誉教授 佐藤 知正 氏
	次世代ロボット機構の創出に向けた研究開発	東北大学 大学院 准教授 多田 隈 建二郎 氏
第9回	最終発表	



産業用ロボットビジネスフォーラム



ロボット Sler 養成講座

2-6

人材育成

SIC 経営塾

事業の目的

先端的なケーススタディを通じ、経営の理論と実践を学び、塾生自らが事業構想を再構築することにより、「真の経営力」を養成することを最終目的とする。

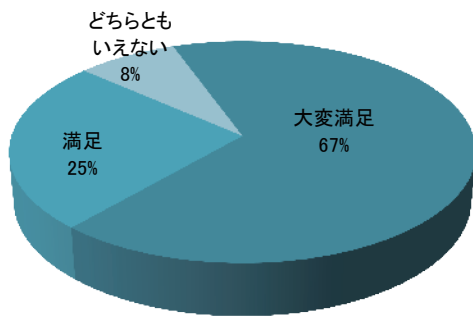
▶ 受講生

- ・ 9名 累計 175名
- ・ 次世代の経営者や経営幹部の受講生が多い

▶ 聴講生

- ・ 3名 累計 33名

▶ 顧客満足度



▶ 顧客の声

- ・ 事業構想についての勉強ができ、大変ためになりました。
- ・ これまで構想という考えを持つことなく仕事に従事していましたが、今回自社を見つめ直す機会を得たことは大変身になった。
- ・ 経営塾での学びにより、考える際の視点が増えました。特に事業計画を考えることで、力がついていくことを実感も出来ました。
- ・ 9ヵ月間という短い時間でしたが、大変勉強になりました。これからスタートだと思えますので、頑張りたいと思います。
- ・ 何事も1日1日積み上げていくことが大切だと感じました。今回の受講を機に経営について学び続けていきます。
- ・ 立場も環境も違う、十人十色の考え方を聴け、非常に勉強になりました。
- ・ 事業構想の考え方、まとめ方など勉強になりました。コメンテーターの方の指摘、助言ポイントも非常に参考になりました。
- ・ 9ヵ月間、長かったような、あっという間のような時間でしたが、「社長1年生」の自分にとって、大変有意義な時間でした。

▶ 活動内容

講義

最先端の経営理論を学びます。

- 先端企業経営者の実体験や様々な先進的な取組み事例を通して最新の経営理論と実例を学び、自社の課題に置き換えて検証します。

討論

塾生、コーディネータとの討議を重視します。

- 課題図書、事例研究を基に、異業種の方々と討論が自社を見つめ直し、自社の事業構想を構築する良い機会となるでしょう。

事業構想の再構築

最終ゴールは自社の事業構想の再構築です。

- 実証的な研究や討論を通し、自社を客観的に見つめ直し事業構想を策定し、自社における「NEXT STAGE」を考えます。

■カリキュラム:

回	課題シート・講義内容
1	オリエンテーション
2-3	わが社の経営の現状を語る(1泊2日合宿)
4	現状を分析する
5	存在意義を問う
6	コアコンピタンスを定義する
7	戦略シナリオを考える
8	財務構造を改善する
9	組織文化の変革を仕掛ける
10	ビジネスプランを練り上げる
11	わが社の経営の将来を語る(自社の事業構想の発表)



2-7

人材育成

SIC 職場リーダー養成塾

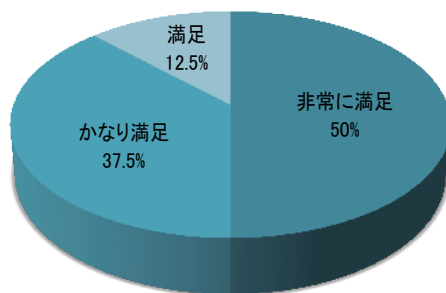
事業の目的

地域企業の中堅層の職場リーダーに対して、業種の異なるリーダーとの他流試合やコミュニケーション研修、社内実践による職場の課題解決を通して、職場リーダーとして求められる「組織で成果を出す力」を養成する。

▶ 受講生

16名 累計 206名

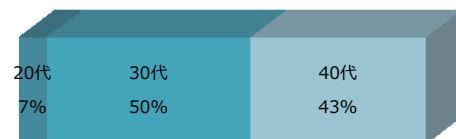
▶ 顧客満足度



▶ 顧客の声

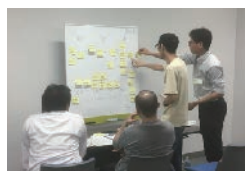
- ・他人の意見を聞く機会は少ないので有意義だった
- ・自分に足りないものが学べた
- ・コミュニケーション、プレゼンの講義もためになった
- ・色々アドバイスをもらえ、仕事に活かしやすかった
- ・周りを巻き込み行動計画を立てながら課題を達成する流れを作ること
- ・人との接し方やコーチング、コミュニケーションの実践方法
- ・他社の方との交流の中で視野を広げることができた

▶ 受講生の年齢構成



▶ カリキュラム

	開催日	内容
	4月下旬～5月下旬	事前ヒアリング
第1回	令和元年 6月 8日(土)	オリエンテーション・職場のコミュニケーション①
第2回	令和元年 6月 19日(水)	課題解決の枠組みを理解する
第3回	令和元年 7月 3日(水)	職場の問題を抽出する
第4回	令和元年 7月 10日(水)	
第5回	令和元年 7月 22日(月)	職場のコミュニケーション②
第6回	令和元年 8月 1日(木)	職場の課題解決の枠組みを検討する（問題把握、課題設定、目標設定、対策検討、行動計画）
第7回	8月上旬	課題解決取り組みフォロー個別指導
第8回	令和元年 9月11日(水)	職場の課題解決の枠組みを決定する
準備期間	9月中旬～下旬	社内実践準備期間
実践機関	10月～11月	社内実践期間（2ヶ月間）
第9回	令和元年11月 6日(水)	プレゼンテーションを学ぶ
第10回	令和元年12月11日(水)	成果発表会



2-8

人材育成

SIC カイゼン・スクール

事業の目的

企業が全社展開し、継続して実施することで経営体質の強化に結びつく“カイゼン活動”を受講生が体系的に理解し、研修を通して自社内における課題を抽出して、その解決に向けたカイゼン活動により「小さな成功」を生み出すことを目的とする。

▶ 受講生

- ・ 11名 累計 91名
- ・ 製造業等の現場リーダー層を対象としています

＜受講した企業の業種＞

無線機リース・レンタル、溶接機設計・製造、帆布製品製造、化粧品等の検査・包装、印刷業、生産用機械器具製造、金属部品切削加工、流量計・継手製造、自動車部品製造 など

▶ カリキュラム

日程	講義内容	
7月下旬～8月下旬	現場訪問	講師（カイゼン・マイスター）による受講企業の現場診断と受講生への事前ヒアリング
9月14日（土）	オリエンテーション カイゼンの全体像（講義）	受講生によるカイゼンテーマ発表、カイゼン活動の目的・カイゼンの全体像に関する講義
9月28日（土）	講義・グループワーク① 「カイゼン活動の進め方」	カイゼン活動の基本的な進め方、カイゼン事例演習
10月11日（金）	現場実習	先端的なカイゼン活動を行っている現場での見学・実習
10月26日（土）	講義・グループワーク② 「トヨタ生産方式に学ぶ」 「品質改善の考え方・手法」	品質管理や品質保証の必要性、QC7つ道具の使い方や品質改善の手法
11月9日（土）	講義・グループワーク③ 「標準作業の概要」	カイゼン活動に必要な標準作業の概要、標準書作成演習
11月23日（土）	カイゼンの振り返りと今後の進め方	スクールの受講期間に実践したカイゼンの取り組みの振り返りと今後の進め方
12月7日（土）	成果発表会	スクール開講時に設定した自社の現場での課題について、その解決に向けた「カイゼン計画書」をスクール受講の成果として各自発表

▶ スクールの内容



まずは課題を明確化することから
カイゼン・スクールは、講師による事前の現場診断・ヒアリングによって、自社の課題と解決の方向性を受講生自身で明確化することから始まります。課題を明確化することにより、スクールに取り組む目的意識も高まります。



活きたカイゼンの考え方と手法を学ぶ
講義では、受講生同士の議論・交流を促すグループワークも取り入れながら、経験豊富な講師陣からカイゼン活動の考え方と手法を学び、設定した課題の解決方法を探ります。また、現場実習では、他社工場のカイゼン活動を活きた教材として、自社ではどのようにカイゼンに取り組んでいくのがよいか、より具体的なヒントが得られます。

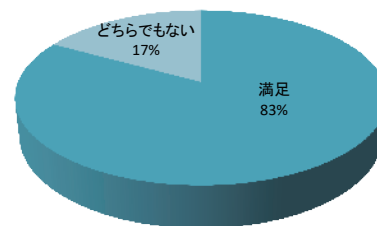


カイゼン計画の立案・実行へ
設定した課題の解決に向け、スクールを通して学んだ考え方と手法を取り入れたカイゼン計画を立案・実行し、その成果について最終回で発表します。そして、スクール期間中だけでなく、終了後も、それぞれの現場でカイゼンに取り組んでいただきます。



事前現場診断、講義・現場実習の講師は
(株)カイゼン・マイスターのアドバイザーです。

▶ 受講生の満足度



▶ 修了生の声

- ・ カイゼンの手法だけでなく、標準化や一般的な部門、部署の役割などを知ることができ大変勉強になった。
- ・ 普段より行っていたカイゼンも具体性がないまま行っていたが、分析し、ムダをなくすという目的が明確になり取り組みやすくなった。
- ・ 約3か月の研修を通して社内での課題が見えてきたので、研修で学んだことを社内へ反映させていきたい。



講義



グループワーク



成果発表会

2-9

人材育成

さがみはら子どもアントレプレナー体験事業

事業の目的

小学生を対象に初めて出会う仲間と会社設立から決算までの会社経営のプロセスを疑似体験することで以下のようなことを学ぶ。

1. 会社や経済の仕組みを知る
2. 失敗を恐れずに挑戦できる心を養う
3. 自分の考えで行動できる力を養う
4. チームワークの大切さを知る
5. お金の大切さを実感する

参加者数

60名 累計 833名

顧客満足度

- ① 会社の仕組みを理解することができた 88%
- ② お金に対するイメージが変わった 91%
- ③ チームで協力して取り組むことができた 86%

<保護者アンケート>

満足 93%



参加者の声

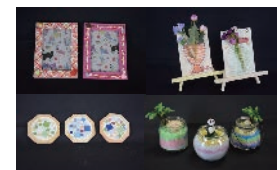
- ・最後まであきらめずに努力したことにチャレンジした。
- ・社長は、みんな考え方がバラバラだからまとめるのは難しかったけど、何かが決まるとうれしかった。
- ・今回の経験が役に立ちそうだからまた参加したい。
- ・販売マネージャーは、販売の工夫を考えるのがむずかかった。

保護者の声

- ・発表する姿を見て成長を感じました。
- ・BBの方も、とてもよくサポートしてくださり、大学生の方に感謝しています。
- ・体験前、本人がとても参加する事に不安があり心配でしたが、体験後はとても楽しかったと帰ってきたのが親として何より嬉しかったです。

事業概要

	開催日	内容
1日目	令和元年8月16日(金)	・会社設立 ・事業計画書作成
2日目	令和元年8月17日(土)	・融資交渉 ・材料仕入れ ・商品製造
3日目	令和元年8月18日(日)	・販売 ・決算 ・報告会 ・修了式



2-10

人材育成

『アントレ・チャレンジ』プロジェクト

事業の目的

- ①プロジェクト（子どもアントレ）の企画・運営（仕事体験）を通じて、起業家精神（チャレンジ精神、創造性等）および主体性を涵養する。
- ②経営者との交流、社会人の思考や行動を知ることなどを通じて、将来（キャリア）を考えるきっかけとするとともに、社会人としての心構え、あるべき姿を学ぶ。

▶ 参加者数 3名 累計143名

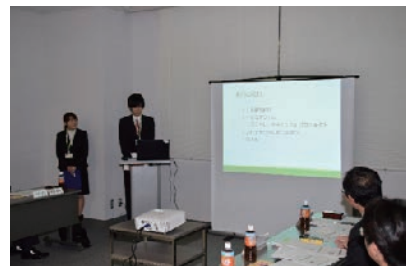
▶ 参加者の声（『アントレ・チャレンジ』プロジェクトを一言で言うと。17期生へのメッセージ）

- ・「新たな視点、成長、仲間を得られる！」
本気で取り組むうちに、大いに成功した「自分」と出会う。
自分に欠けていたものを知り、その改善や足掛かりを得ることができた。

▶ 事業概要

毎年8月に開催する「さがみはら子どもアントレプレナー体験事業」の企画運営を大学生が中心となって行うものです。

	開催日	内容	概要
1	令和元年 6月22日（土）	キックオフ	経営者講演、ビジネスマナー研修
2	令和元年 6月～8月	企画・準備	企画、準備を行う
3	令和元年 6月23日（日）	商品企画研修	参加者が商品製造の際、想像力を引き出すような商品選びの工夫を学ぶ
4	令和元年 6月30日（日）	コーチング研修	子どもの考えや思いの引き出し方を学ぶ
5	令和元年 8月16日（金） ～18日（日）	子どもアントレ	小学生に会社経営の疑似体験プログラムを提供する
6	令和元年 10月25日（金）	アントレ実施結果報告、修了式	子どもアントレの実施結果を報告



2-11

人材育成

サガツクナビ（地元企業と学生との出会いをつなぐ）

事業の目的

“地元企業の採用の円滑化”と“地元で働きたい学生の就職の円滑化”を目指して、神奈川県県央地域、東京都多摩地域をフィールドに定め、地元企業の魅力を伝えるイベントとインターネットでの企業情報発信の両輪で地元企業と学生の出会いの場を創出し、新卒採用（就職）のサポートをする。

実績

サガツクナビサイトへのアクセス状況：セッション数 17,268、訪問ユーザー数 12,894、ページビュー数 75,600 ページ
 メールマガジン配信回数 29 回（受信者総数 3,054 名：学生 811 名、就職課 532 名、企業 1,711 名）
 合同就職説明会 3 回開催、企業 31 社、学生 33 名
 個別相談会 学生 24 名（相談回数 81 回）
 企業と学生（教職員）の相互理解サポート 14 回開催、企業 37 社、学生 204 名、教職員 2 名

情報発信

- ウェブサイトやメルマガなどによる情報発信
- ①サガツクナビサイトにて地元企業やイベント情報などを発信
 - ②メールマガジン「サガツクナビ通信」の配信
 - ③Facebook での情報発信

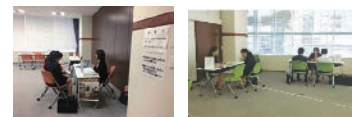


イベント

<採用&就活サポート>

- ①ジョブミーツ（合同就職説明会）
- ②学内合同説明会（サレジオ高専、専修大学）
- ③ジョブサポート（充実した就職活動となるよう就活生等に対する個別相談会）

ジョブミーツ



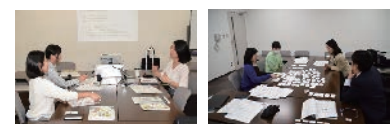
<企業と学生（教職員）の相互理解サポート>

- ①KAIMAMI シリーズ（自分の知らない世界を垣間見る）
 - 企業見学ツアー
 - 地元就活生サポートセミナー（全3回）
 - 地元採活企業サポートセミナー（全3回）
 - サレジオ高専（電気工学科、デザイン学科、情報工学科）業界研究セミナー
 - サレジオ高専（機械電子工学科4年生）業界研究セミナー
 - サレジオ高専キャリアデー（機械電子工学科3年生）
 - 採用直結！理系就活生限定、企業見学ツアー

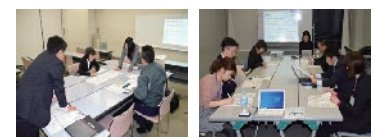
ジョブトーク



地元就活生サポートセミナー



- ②ジョブトーク（学生と企業の交流会）
- ③企業取材（学生目線による地元企業の魅力配信
（取材協力：さがまち学生 Club））
- ④さがまち就活塾
- ⑤仕事探求セミナー



地元採活企業サポートセミナー

2-12

販路開拓

海外販路開拓支援事業（台湾ビジネスサポート事業）

事業の目的

地域企業が継続的に発展するために海外展開をサポートする。海外へ比較的強い販売力を持つ企業が多く、日本とのビジネスの実績が十分にある「台湾」で、或いは台湾経由による他の国々でビジネスを発展・成長させていく。

▶ 事業内容

個社支援

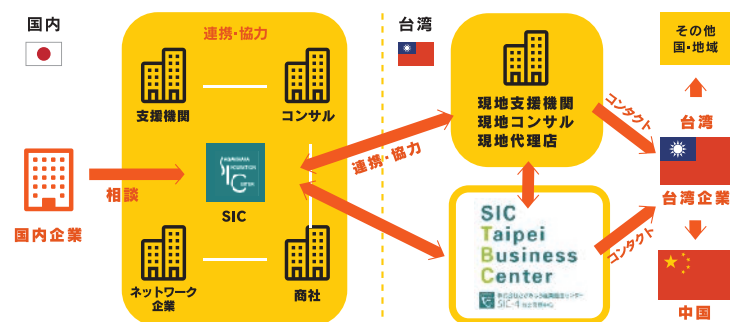
- ・ロボット向け制御機器の台湾販路開拓相談
- ・発電エネルギー供給装置の台湾代理店調査相談
- ・半導体製造用治工具の台湾調達相談
- ・EV 向け電池部品用金型の台湾販路開拓相談
- ・EV 向け制御機器の試作開発から量産まで対応可能な台湾 OEM 企業探索の相談
- ・Eバイク向けモータ部品の試作開発から量産まで対応可能な台湾 OEM 企業探索の相談
- ・フィットネス機器の試作開発から量産まで対応可能な OEM/ODM 企業探索相談
- ・建築塗料関連用品の台湾販路開拓相談
- ・日用雑貨の台湾販路開拓相談
- ・キッチン用品の台湾販売代理店探索相談
- ・化粧品の台湾販路開拓相談
- ・中古車部品の台湾販路開拓相談
- ・台湾への日本企業情報配信サービス相談
- ・台湾ツアー企画相談（支援機関・自治体等）
- ・台湾企業向けカイゼンコンサルティング（台湾工場診断・台湾カイゼンフォーラム）

▶ 顧客の声

- ・受託開発や OEM 生産、販路開拓など受発注先が見つかった。
- ・大手企業との提携を実現できた。
- ・海外現地法人を設立するきっかけづくりになった。
- ・素早い意思決定や行動力とそれを実現する組織づくりの重要性を知った。
- ・自社の技術や製品が海外でも十分に通用することが分かった。

▶ 運営体制

SIC では、国内の支援機関や商社、ネットワーク企業等の連携や協力だけでなく、『SIC 台北ビジネスセンター』による独自のネットワークを活用し、台湾現地の支援機関やコンサルティング会社、代理店との連携・協力を行いながら、支援体制を構築している。



3-1

さがみはら産業創造センターの歩み

1998年度 (平成10年度)	・検討会の提言…市内の若手経営者、相模原市などの若手スタッフによる検討会が相模原市にセンター整備を提言
1999年度 (平成11年度)	・会社設立…相模原市、相模原商工会議所及び新事業創出促進法に基き地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）が出資し会社設立 ・増資…地元企業や地域金融機関などが出資 ・第1回女性起業家育成セミナー開催
2000年度 (平成12年度)	・S I C - 1（インキュベーションセンター）オープン ・第1回ビジネスプランコンテスト開催
2001年度 (平成13年度)	・第1回さがみはら子どもアントレプレナー体験事業開催 ・増資…相模原市、地域振興整備公団（現中小企業基盤整備機構）、地元企業が出資
2002年度 (平成14年度)	・S I C - 2（ポストインキュベーションセンター）オープン ・女子美術大学と「ヒューマンデザイン開発支援事業」に関する協定を締結、中小企業のデザインを支援するデザイン開発支援事業を開始 ・経済産業省から「即効型地域新生コンソーシアム事業」を受託 ・第1回「S I C 経営塾」開講
2003年度 (平成15年度)	・職業能力開発総合大学校と「地域企業活性化支援事業」に関する協定を締結 ・八千代銀行（現きらぼし銀行）と「起業家支援事業」に関する協定を締結 ・地域企業450社の実態調査を実施
2004年度 (平成16年度)	・神奈川工科大学と「産学連携事業」に関する協定を締結 ・第1回「S I C アントレ・インターンシップ」開講 ・かわらばん（入居企業版）創刊号発行
2005年度 (平成17年度)	・S I C 1号投資事業有限責任組合（S I C ファンド）を組成 ・神奈川県「新産業創出拠点形成促進事業」を受託 ・S I C 燃料電池研究会が発足 ・第1回 SIC 起業家塾開講
2006年度 (平成18年度)	・相模原市から「首都圏南西地域産業活性化フォーラム」の運営を受託
2007年度 (平成19年度)	・第1回職場リーダー塾開講 ・S P S 研究会が発足
2008年度 (平成20年度)	・株式会社カイゼン・マイスターと業務提携し、地元企業向けのカイゼン支援を開始 ・かわらばん（地域企業版）創刊号発行
2009年度 (平成21年度)	・さがみはら企業力支援事業を開始、併せてメンター（経営指図書）制度を創設 ・緊急雇用事業を相模原市から受託し、大規模な市内企業実態調査や産業界の人づくり支援事業などの人材育成に取り組む ・経済産業省から「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」を受託
2010年度 (平成22年度)	・さがみはら表面技術研究所オープン ・インキュベーション型シェアードオフィス「DESK@」オープン ・第1回台湾ビジネスマッチングを開催
2011年度 (平成23年度)	・台湾工業技術研究院 (ITRI) と連携協定を締結 ・S I C - 3（イノベーションラボ）オープン ・S I C 台湾ビジネスセンターオープン ・経済産業省「戦略的基盤技術高度化支援事業」を受託 ・企業紹介冊子「おもしろ企業の魅力拝見！」出版 ・地域発信冊子「葎尾根のブルーベリー」発行
2012年度 (平成24年度)	・神奈川県「かながわ環境関連産業ネットワーク事業」等を受託 ・経済産業省「高度実践型支援人材育成事業」を受託 ・インキュベーションセンター「T-BISC」、「MBDA」の計画 ・運営サポートを受託・第1回南西フォーラムビジネスマッチング開催 ・SIC 台湾ビジネスサポート事業開始 ・第1回 SIC カイゼン研究会（現 SIC カイゼン・スクール）開講
2013年度 (平成25年度)	・財団法人台湾建築中心（TABC）及び財団法人金属工業研究発展中心（MIRDC）と連携協定を締結 ・神奈川県「かながわ成長産業イノベーション事業」を受託
2014年度 (平成26年度)	・地域密着型就職支援事業「サガツク」を開始 ・全国中小企業団体中央会 「ものづくり中小企業 ・小規模事業者連携支援事業」受託 ・神奈川県「ロボット実証実験支援事業」重点プロジェクト委員会事務局を担う
2015年度 (平成27年度)	・相模原市から産業用ロボット導入支援事業を受託し、さがみはらロボット導入支援センターをオープン ・神奈川県「成長産業育成支援事業」を受託
2016年度 (平成28年度)	・「みんなで一人前の社会人になる研修」を開始 ・綾瀬市商工会からビジネスマッチング事業を受託 ・相模原市と連携する大和市・座間市・寒川町から産業用ロボット導入支援事業を受託
2017年度 (平成29年度)	・神奈川県「成長ベンチャー情報発信事業」受託 ・台湾工業技術研究院 (ITRI)、財団法人金属工業研究発展中心 (MIRDC) と連携協定を更新
2018年度 (平成30年度)	・S I C - 2 R&D Lab. 着工 ・World Robot Challenge 2018 に市内企業等で Team SAGAMIHARA を結成し参加
2019年度 (令和元年度)	・S I C - 2 R&D Lab. オープン ・相模女子大学との連携協定を締結 ・相模原市「ロボット制御・AI 等共同研究開発事業」受託

3-2

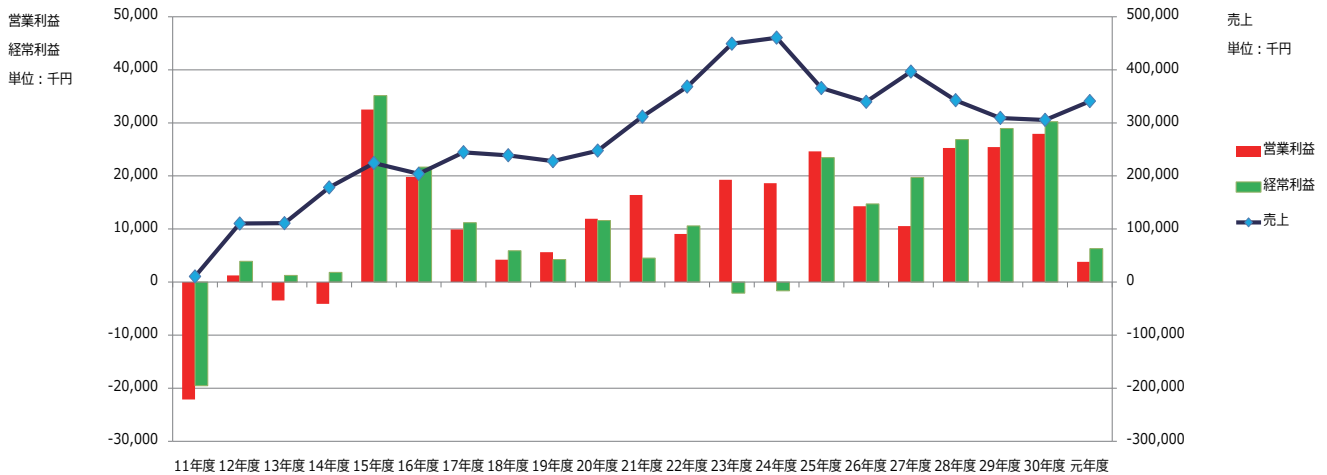
主な事業と開始年度（カテゴリー別）

年度	ラボ・オフィス	経営サポート	技術開発	人材育成	資金調達・販路開拓
1999年度 (平成11年度)		・ビジネスプランコンテスト	・新規成長産業連携支援事業	・女性起業家育成セミナー	
2000年度 (平成12年度)	SIC-1 オープン	・株式公開塾 ・入居企業セミナー	・中小企業のための技術セミナー		
2001年度 (平成13年度)			・ミニコンソーシアム事業	・さがみはら子どもアントレプレナー体験事業(小学生)	
2002年度 (平成14年度)	SIC-2 オープン	・アントレフォスター事業 ・中小企業のデザイン開発支援	・経済産業省「即効型地域新生コンソーシアム」受託	・SIC経営塾・さがみはら子どもアントレプレナー体験事業(中学生)	・KSPベンチャー マッチング商談会に参画
2003年度 (平成15年度)		・八千代起業家支援プログラム ・地域企業実態調査(450社)	・大学シーズ調査	・SIC経営者セミナー	
2004年度 (平成16年度)		・さがみはら青年アントレプレナープロデュース事業 ・かわらばん(入居企業版) 創刊号発行	・新技術創造研究会	・SICアントレ・インターン	
2005年度 (平成17年度)			・神奈川県「新産業創出拠点形成促進事業」受託 ・燃料電池研究会発足	・SIC起業家塾	・SIC1号投資事業 有限責任組合組成
2006年度 (平成18年度)		・チャレンジショップ	・「首都圏南西地域産業活性化フォーラム」受託	・SIC起業家育成大学校	・入居企業4社、地域企業3社 に出資
2007年度 (平成19年度)			・SPS研究会	・SIC職場リーダー養成塾	・入居企業1社、地域企業2社 に出資
2008年度 (平成20年度)		・中小企業のカイゼン活動支援 ・かわらばん(地域企業版) 創刊号発行	・実用化開発支援		・入居企業1社に出資 ・SICテクノロジーマッチング ・KSP協創マッチングフォーラム に参画
2009年度 (平成21年度)		・メンター制度 ・さがみはら企業力支援事業 ・地域企業実態調査(500社)	・経済産業省「低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業」受託	・地域産業界の人づくり支援事業 ・さがみはら未来塾 ・ベンチャー・中小企業人材 確保支援事業	
2010年度 (平成22年度)	DESK® オープン	・ソーシャルビジネス創育支援 事業	・高度研究人材活用事業 (さがみはら表面技術研究所) ・神奈川県バイオベンチャー人材 活用事業		・台湾ビジネスマッチング開催 ・川崎市産業振興財団 新事業マッチングフォーラム 参画
2011年度 (平成23年度)	SIC-3 オープン	・企業紹介冊子「おもしろ企業の 魅力拝見！」出版 ・地域発信冊子「葦尾根のブルー ベリー」発行	・経済産業省「戦略的基盤技術高度 化支援事業」受託 ・新製品開発のための「協創プロジェ クト」 ・相模原市から「新技術実用化コン ソーシアム形成支援事業」受託	・ISB公共未来塾	・台湾工業技術研究院と協定 ・SIC台湾ビジネスセンター オープン
2012年度 (平成24年度)	「T-BISC」、 「MBDA」 の計画・運 営サポート	・地域発信冊子「里山コミュニ ティ」発行 ・企業紹介冊子「い〜コトなび」 発行	・神奈川県「かながわ環境関連産業 ネットワーク事業」受託	・SICカイゼン研究会 ・経済産業省「高度実践型 支援人材育成事業」 ・女性力発揮セミナー ・子どもワークショップ	・日本台湾アライアンスセミナー ・南西フォーラム ビジネスマッチング
2013年度 (平成25年度)			・可搬型燃料電池・飲料水供給装置 の開発	・SICカイゼンスクール	・財団法人台湾建築中心、財団法 人金属工業研究発展中心と連携 協定を締結 ・日台環境・建築ビジネスマッ チングを開催
2014年度 (平成26年度)			・全国中小企業団体中央会「ものづ くり中小企業・規模事業者連携支 援事業」 ・神奈川県「ロボット実証実験支援 事業」重点プロジェクト事業	・「サガツクナビ」ポータル サイト	
2015年度 (平成27年度)			・相模原市「産業用ロボット導入 支援事業」「コンソーシアム加 速化支援事業」受託 ・神奈川県「成長産業育成支援事 業」受託		
2016年度 (平成28年度)				・「みんなで一人前の社会人 になる研修」	・SIC1号投資事業有限 責任組合解散
2017年度 (平成29年度)			・神奈川県「成長ベンチャー情報発 信事業」受託		・日台ものづくり企業ビジネス交流 ツアー
2018年度 (平成30年度)	SIC-2(仮) 増築棟起工式				
2019年度 (令和元年度)	SIC-2 R&D Lab. オープン		・相模原市「ロボット制御・AI等 共同研究開発事業」受託		

3-3

財務状況

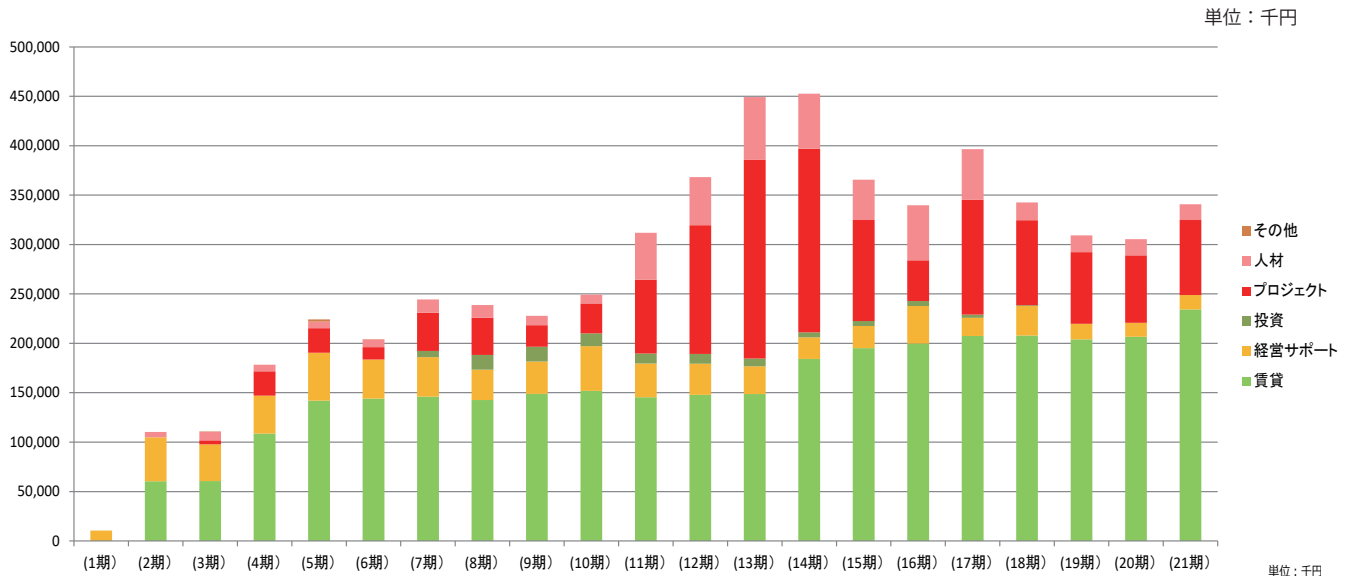
P/L 推移



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)	25年度 (15期)	26年度 (16期)	27年度 (17期)	28年度 (18期)	29年度 (19期)	30年度 (20期)	元年度 (21期)
売上	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,221	452,739	365,658	339,759	396,465	342,657	309,168	305,449	340,813
営業利益	-22,122	1,257	-3,455	-4,101	32,523	19,804	9,914	4,219	5,620	11,946	16,397	9,080	19,283	18,649	24,640	14,298	10,548	25,278	25,445	27,926	3,808
経常利益	-19,522	3,922	1,256	1,817	35,141	21,656	11,200	5,910	4,242	11,604	4,514	10,568	-2,082	-1,641	23,436	14,711	19,727	26,860	28,937	30,221	6,310

単位：千円

事業別売上高の推移



	11年度 (1期)	12年度 (2期)	13年度 (3期)	14年度 (4期)	15年度 (5期)	16年度 (6期)	17年度 (7期)	18年度 (8期)	19年度 (9期)	20年度 (10期)	21年度 (11期)	22年度 (12期)	23年度 (13期)	24年度 (14期)	25年度 (15期)	26年度 (16期)	27年度 (17期)	28年度 (18期)	29年度 (19期)	30年度 (20期)	元年度 (21期)
貸貸	0	60,473	60,622	108,655	142,026	143,982	145,990	142,525	148,914	151,930	145,552	147,969	148,705	184,290	195,181	199,726	207,547	207,790	204,049	206,749	234,421
経営サポート	10,429	44,344	37,125	38,379	48,475	39,669	40,038	30,769	32,709	45,225	34,042	31,402	28,039	21,837	22,348	38,000	18,204	30,010	15,758	14,132	14,482
投資	0	0	0	0	0	0	6,250	15,000	15,000	12,915	9,999	10,000	7,917	5,000	5,000	5,000	3,250	750	0	0	0
プロジェクト	0	0	4,130	24,713	24,744	12,530	38,545	37,595	21,655	30,258	74,868	130,200	201,456	185,723	102,340	41,195	116,116	85,967	72,519	68,249	75,931
人材	0	5,447	8,629	6,576	6,785	7,809	13,699	12,922	9,525	8,969	47,363	48,574	63,105	55,889	40,788	55,837	51,349	18,140	16,841	16,318	15,978
その他	0	0	502	0	2,240	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
売上合計	10,429	110,264	111,008	178,323	224,271	204,022	244,523	238,812	227,805	247,560	311,824	368,145	449,222	452,739	365,658	339,759	396,466	342,657	309,168	305,449	340,813

3-4

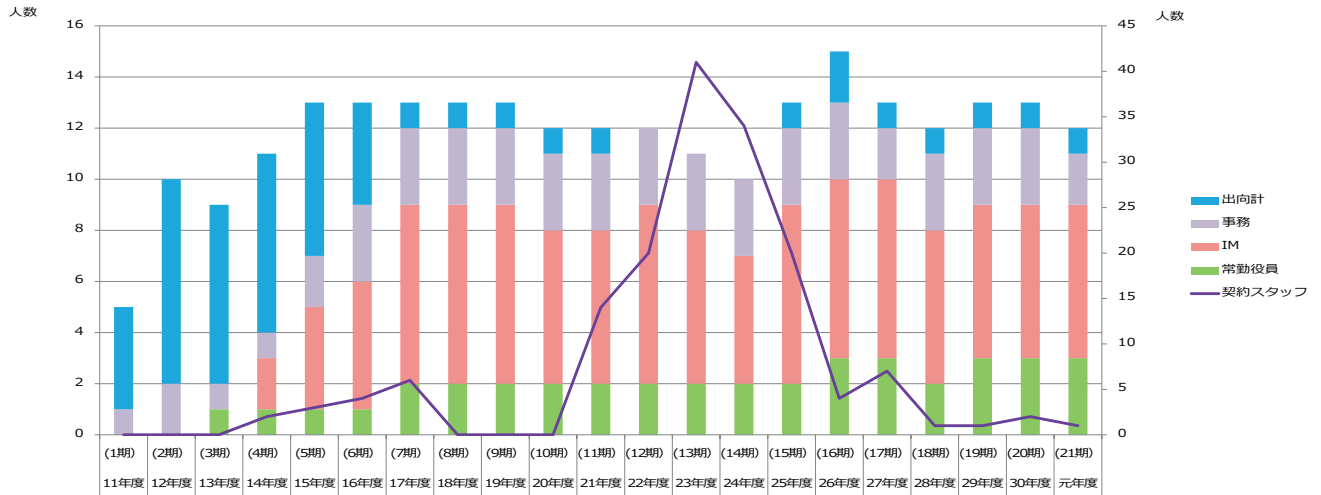
競争的資金の獲得

単位：千円

年度	資金獲得先	事業名	資金額
平成14年度	経済産業省	即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業 「次世代デバイス用超高精度ナノレベル研磨・洗浄複合装置の開発」	40,000
平成17年度	神奈川県	新産業創出拠点形成促進事業 「燃料電池システムにおける本体及び周辺機器・部品の開発」	20,000
平成18年度	神奈川県	新産業創出拠点形成促進事業 「燃料電池システムにおける本体及び周辺機器・部品の開発」	22,000
平成20年度	中小機構	川上川下ネットワーク構築支援事業 「次世代エネルギーシステムの早期実用化ネットワーク構築」 新現役チャレンジ支援事業 「新現役人材による中小企業支援のモデル事業としてカイゼン支援プログラム開発」 ビジネス・インキュベータ（BI）における広域的ネットワーク構築の調査事業 「グループインキュベーション」手法の開発と検証ーネットワークによる支援と手法のネットワーク化ー	25,600
	神奈川県	ベンチャー創出促進モデルプロジェクト事業 「動物病院医療市場を対象とした犬のアレルギー及び免疫検査受託事業」 「静電エンコーダの事業化」	
平成21年度	経済産業省	低炭素社会に向けた技術発掘・社会システム実証モデル事業 「太陽光雨水などの自然の恵みを有効活用した安全・安心な低炭素社会システムの構築」	64,000
平成22年度	経済産業省	中小企業海外販路開拓支援事業（台湾ビジネスマッチング） 「神奈川県ビジネス・インキュベータ連携によるIT/エレクトロニクス分野 研究関連型ベンチャー企業の海外販路支援事業」	11,500
平成23年度	経済産業省	戦略的基盤技術高度化支援事業 「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」	7,000
	中小機構	BIネットワーク構築事業 「T-BISCの整備に協調・連携した国内外ビジネスマッチング事業」	
	神奈川県	新産業ベンチャー事業化支援事業 「生物機能制御・改善のための体内時計調節剤及び関連試薬の開発」	
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」	
平成24年度	経済産業省	戦略的基盤技術高度化支援事業 「次世代パワーデバイス向け革新的手法を用いた成膜技術の開発」 高度実践型支援人材育成事業	101,700
	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわエネルギー関連ベンチャーマッチング・パートナーリング支援事業	
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「表面形状を制御した低摺動医療用機能部品の要素開発」	
平成25年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業	8,000
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成事業 「表面形状を制御した医療用機能部品の要素開発」	
平成26年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわ成長産業イノベーション事業	33,900
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成事業 「ハーブ等植物の家庭用高効率栽培システムの開発」	
平成27年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわ成長産業育成支援事業	21,470
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「ハーブ等植物の家庭用高効率栽培システムの開発」 コンソーシアム加速化支援事業	
平成28年度	神奈川県	かながわ環境関連産業ネットワーク事業 かながわ成長産業育成支援事業	17,770
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「商店街の安全性向上・活性化を目指したハイパー自販機の開発」	
平成29年度	神奈川県	成長ベンチャー情報発信事業 [エネルギー及びIT分野]	6,480
	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「商店街の安全性向上・活性化を目指したハイパー自販機の開発」	
平成30年度	相模原市	新技術実用化コンソーシアム形成支援事業 「商店街の安全性向上・活性化を目指したハイパー自販機の開発」	2,777
令和元年度	相模原市	ロボット制御・AI等共同研究開発事業	9,090

3-5

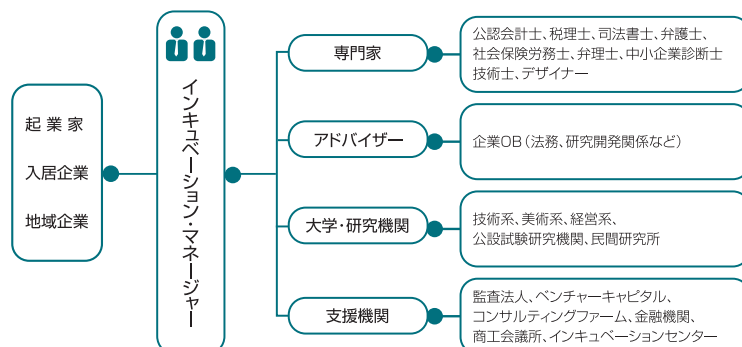
スタッフ数の変遷



	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
	(1期)	(2期)	(3期)	(4期)	(5期)	(6期)	(7期)	(8期)	(9期)	(10期)	(11期)	(12期)	(13期)	(14期)	(15期)	(16期)	(17期)	(18期)	(19期)	(20期)	(21期)
常勤役員	0	0	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	3	3	3
非常勤役員	13	13	13	13	15	15	13	12	11	10	10	10	11	11	12	13	12	12	12	13	12
IM	0	0	0	2	4	5	7	7	7	6	6	7	6	5	7	7	7	6	6	6	6
事務	1	2	1	1	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2
相模原市から出向	3	5	5	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中小機構からの出向	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
銀行からの出向	1	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	1	1	1
出向計	4	8	7	7	6	4	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	1	1	1	1
計	5	10	8	10	12	12	11	11	11	10	10	10	9	8	11	12	10	10	10	10	9
契約スタッフ	0	0	0	2	3	4	6	0	0	0	14	20	41	34	20	4	7	1	1	2	1
パートタイマー	0	1	1	4	2	2	4	3	1	1	1	1	3	3	3	4	3	3	5	2	2

3-6

支援ネットワーク



3-7

視察・研修

令和元年度 国内

名 称
視 察
相模原市、浜松地域イノベーション推進機構、モノづくり応援隊 in 大田区（大田区産業振興協会）、 化学工学会、電気学会、いわて産業振興センター、長野県テクノ財団、福島県南相馬市、関東経済産業局 広島県東広島市、埼玉県議会 公社事業対策特別委員会、北海道下川町、旭川産業創造プラザ、 自治体地域産業政策勉強会
研 修
日本ビジネス・インキュベーション協会 IM養成研修、BI実習

海外

年 度	名 称	
平成 17 年度	チュニジアベンチャーキャピタル協会 海外技術者研修	チュニジア アジア、アフリカ諸国
平成 19 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（JICA） モンゴル中小企業振興研修	アジア、アフリカ、中東、中南米諸国 モンゴル
平成 20 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（JICA）	アジア、オセアニア、アフリカ諸国
平成 21 年度	集団研修地方自治体による民間産業活性化セミナー（JICA） 韓国インキュベーションスタッフ研修	アジア、オセアニア、アフリカ諸国 韓国
平成 22 年度	オマーン技術大学指導員研修、無錫市政府 マレーシア国職業訓練校指導員研修	オマーン、中国 マレーシア
平成 23 年度	工業技術研究院、中国山東省（対日投資）視察団	台湾、中国
平成 24 年度	中小企業支援法制度検討視察（JICA） 国際企業人材育成センター日本語プログラム研修（台湾貿易センター）	ベトナム 台湾
平成 25 年度	アフリカ地域女性起業家支援セミナー（JICA） 台湾工業技術研究院 産業経済與趨勢研究中心	アフリカ諸国 台湾
平成 26 年度	シンガポール国立大学	シンガポール
平成 27 年度	法政大学（欧州産学連携研究者視察団）、トロント市議会 中国 無錫市、韓国技術ベンチャー財団 行政院世界企業誘致総合サービスセンター、工業技術研究院 台北市コンピュータ協会 アメリカ オースティンアジア商工会、タイ対日技術振興協会	欧州、カナダ 中国、韓国 台湾 台湾 アメリカ、タイ
平成 28 年度	スリランカソフトウェアサービス協会	スリランカ
平成 29 年度	台湾手工具工業同業公会 韓国生産性本部、韓国技術ベンチャー財団・企業、 韓国創業振興院 ドイツロボット関連企業視察団、JETROトロント 中国ロボット関連企業視察団	台湾 韓国 ドイツ、カナダ 中国
平成 30 年度	ベトナム政府及び中小企業支援機関、オンタリオ州東京事務所、 タイ王国科学技術庁、泰日工業大学、韓国技術ベンチャー財団、 JETROトロント、中国・遼寧省経済視察団	中国、 タイ、韓国 アメリカ、中国
令和元年度	泰日工業大学	タイ

3-8

新聞掲載 (元年度)

年月日	新聞名	表 題
2019.04.10	かながわ経済新聞	台湾企業との懸け橋に
2019.04.11	相模経済新聞	自販機で商店街活性化
2019.05.10	かながわ経済新聞	台湾ビジネスをサポート
2019.07.20	相模経済新聞	企業家育成へ新研究科 市内や町田の団体と連携
2019.07.29	日刊工業新聞	カイゼン講義受講生募集
2019.08.10	相模経済新聞	SIC と市ロボ導入で無人化へ
2019.08.10	相模経済新聞	ロボ支援セン新棟 1 階移設
2019.09.06	神奈川新聞	中小企業支援続け 20 年
2019.09.06	東京新聞 Web	ロボット開発に新拠点 相模原・SIC 「新産業ビジネス創出を」
2019.09.06	日刊工業新聞	企業支援 新棟オープン
2019.09.11	相模経済新聞	成長分野の支援強化
2019.09.13	日刊工業新聞	R&D Lab. 入居企業募集
2019.09.13	日刊工業新聞	交流イベントに 150 人 産学連携事例学ぶ
2019.09.20	相模経済新聞	南西フォーラムに 130 人 産学連携の可能性示す
2020.01.21	日刊工業新聞	新棟 “一石三鳥” の利便性 地域密着の企業育成加速
2020.03.18	日刊工業新聞	相模原市 インキュベーション施設に新棟

3-9

広報紙 「かわらばん」の発行

▶ SICかわらばん（入居企業版） 内容：入居企業紹介、セミナー等情報提供等

入居企業様と入居企業様そして当センターとのコミュニケーションの促進を図る為に、新しく入居された企業様のご紹介や入居企業交流会、当センターの開催事業、施設関係の細やかなご案内など、当センターでより快適にご入居頂ける事を目的に毎月発行しています。

発行No.	発行日	紹介企業名（入居企業）他
No. 179	平成 31年 4月1日	ユニロムジャパン株式会社
No. 180	令和 元年 5月7日	心理カウンセリング FLOW
No. 181	令和 元年 6月3日	株式会社インメディアム
No. 182	令和 元年 7月1日	株式会社ロードマップ
No. 183	令和 元年 8月1日	株式会社日刊工業新聞社
No. 184	令和 元年 9月2日	クレバ株式会社
No. 185	令和 元年 10月1日	創立 20周年にあたり
No. 186	令和 元年 11月1日	株式会社G r i t l y
No. 187	令和 元年 12月2日	太田社会保険労務士事務所
No. 188	令和 2年 1月7日	新春のご挨拶
No. 189	令和 2年 2月3日	株式会社クロスコンパス
No. 190	令和 2年 3月2日	株式会社ミューテック



▶ SICかわらばん（地域企業版） 内容：地域企業紹介、入居企業紹介、特集記事、セミナー等情報提供、地元紹介等

地域企業様と当センター、地域企業様と入居企業様、地域企業様と地域企業様を繋ぐコミュニケーションツールとして、入居企業様や地域企業様に親しまれ、企業の皆さまにより良い情報をお届けすることを目的に隔月発行しています。

発行No.	発行日	紹介企業名（地域企業）	紹介企業名（入居企業）	企画ページ
No. 61	令和 元年 5月15日	株式会社メディアプラス	I G N I T E株式会社	企業をサポートし隊 専門家編 “優れた事業構想とはどのようなものか？”
No. 62	令和 元年 7月16日	株式会社小池設備	株式会社ファストリンクテック	企業をサポートし隊 専門家編 “働き方改革が目指す真の目的とは？”
No. 63	令和 元年 10月18日	創立 20周年記念式典 / SIC2 R&D Lab. 竣工式典		
No. 64	令和 元年 11月15日	株式会社オーエイ	芙蓉実業株式会社	企業をサポートし隊 - 広報編 - “売るため” “獲るため” には広報を
No. 65	令和 2年 1月15日	日本電子工業株式会社	エックスレイ・システムズ株式会社	新年挨拶
No. 66	令和 2年 3月16日	株式会社 MEMO テクノス	株式会社ボード・プランニング	企業をサポートし隊 - 広報編 - “プレスリリース” ってなに？



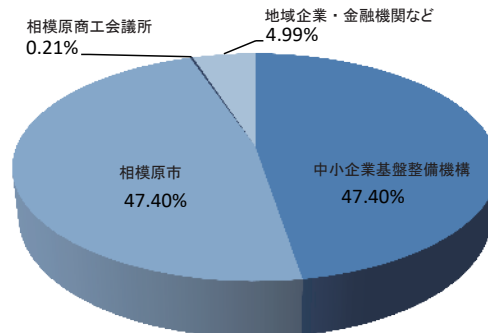
3-10

株主と役員

株主数：31社（者） 発行済株式の総数：47,890株 資本金：23億9,450万円

相模原市	独立行政法人中小企業基盤整備機構
株式会社ボイス	株式会社ハリマビシステム
古木建設株式会社	株式会社きらぼし銀行
株式会社横浜銀行	西武信用金庫
湘南デザイン株式会社	株式会社三菱UFJ銀行
相模原商工会議所	日本テクノ株式会社
城山工業株式会社	日本電子工業株式会社
三菱重工エンジン&ターボチャージャ株式会社	権田金属工業株式会社
株式会社相模運輸	相模原市農業協同組合
相模ガス株式会社	株式会社昭和真空
株式会社ア・ドマニー	篠崎電業株式会社
タイヨー印刷株式会社	東京海上日動火災保険株式会社
東邦電子株式会社	野村 隆
ブックオフコーポレーション株式会社	アイシンク株式会社
Apex 株式会社	

構成割合



代表取締役 取締役	橋元 雅敏	
	安藤 重夫	
	稲垣 英孝	
	山崎 利宏	(城山工業株式会社 代表取締役)
	西澤 勇司	(株式会社キャロットシステムズ 代表取締役)
	杉本 祥一	(株式会社ハイスポット 代表取締役)
	早川 正彦	(有限会社早川銘板製作所 代表取締役)
	佐々木 亮一	(株式会社ライト 代表取締役)
	岩本 晃	(相模原市 環境経済局 経済部長)
	久保田 修	(相模原商工会議所 事務局長兼中小企業振興部長)
監査役	石川 幸二	
	安田 弘幸	(安田弘幸公認会計士事務所 所長)
	平田 光子	(日本大学 生産工学部 マネジメント工学科/生産工学研究科 教授)
	若林 浩之	(株式会社横浜銀行 相模原駅前支店 支店長)
	佐々木 一彦	(株式会社きらぼし銀行 相模原支店 支店長)

SIC-1 Startup Lab. / SIC-2 Creation Lab. / R&D Lab.

さがみはら
産業創造センター



交通アクセス

- 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）
相模原インターから約5km
- 新横浜駅まで約27分 ■横浜駅まで約40分
- 新宿駅まで約40分 ■東京駅まで約60分
- 橋本駅南口から徒歩10分（約1km）

★お車でお越しの場合
SIC-1へは「西橋本3丁目」交差点方向より、SIC-2へは「橋本高校前」交差点方向よりお越し下さい。（反対方向からは進入できません）

SIC-3 Innovation Lab.



交通アクセス

- 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）相模原相川インターから4km
- JR 相模線「上溝駅」から徒歩10分

株式会社さがみはら産業創造センター
Sagamihara Incubation Center Ltd. (SIC)

SIC-1 Startup Lab. / SIC-2 Creation Lab. / R&D Lab.

〒252-0131 神奈川県相模原市緑区西橋本5-4-21

SIC-3 Innovation Lab.

〒252-0243 神奈川県相模原市中央区上溝1880番-2

Tel:042-770-9119(代) Fax:042-770-9077

URL <https://www.sic-sagamihara.jp>